

【敢闘賞】

証券市場活性化に向けた新しい金融教育スキームの構築
～「2-Step 投資学習プログラム」と「投資 Café」の創設～

福島大学人文社会学群

〃

〃

〃

稲村 有基

鈴木 慧

鈴木 拓哉

田中 ひかり

(提言の要約)

現在、わが国では少子高齢化の進行、預金金利の低水準での推移、確定拠出年金制度を導入する企業の増加が趨勢的に観察される。これらは将来の年金給付額が減少し、毎月の年金のみに頼りながら生活することが困難になること、預金のみでお金を殖やすことは容易ではないこと、つまりは、預金以外の投資手段へ目を向けることの必要性が高まっていることを意味する。わが国ではこれまで様々な証券市場に関する規制緩和が実施されてきており、従前に比べ、有価証券等への投資がしやすい環境は整備されつつある。しかし、依然として種々の理由により、個人が投資を積極的に行う動きは顕著には見られていない。

われわれは、独自に実施したアンケート調査（学生、社会人等）を基に、証券市場を活性化させるためにどのような方策が必要であるかについて提案する。アンケートの分析結果より、学生においては投資への潜在的関心度は高いが、既存の内容・形式の講義では投資知識を十分に習得できず、学生のニーズに応えるものとなっていない実態が明らかとなる。社会人等については、預貯金以外の資産運用を考えている割合は一定数いるものの、実際に投資を行う割合は低く、その最も大きな要因として「知識がない」ことが明らかとなる。また、投資知識を得る一つの方法である投資セミナーの受講経験の割合は低く、既存の投資セミナーが投資への関心を喚起させるには十分に機能していないこと、また受講側のニーズと乖離している部分が存在することも示される。

これらの結果を踏まえ、学生・社会人等を問わず、投資教育環境の未成熟が投資の伸び悩みをもたらしているのではないかという想定の下、本稿では投資知識の習得、関心の向上を目的とし、学生に向けて「2-Step 投資学習プログラム」、社会人等に向けて「投資 Café」の創設を提案する。「2-Step 投資学習プログラム」は、前期と後期の通年で実施する授業プログラムである。前期は投資に関する基礎知識の習得を目的とした内容、後期は投資の実践をテーマに、投資ゲームを行い、ポートフォリオの組み方を体感できる内容である。また、「投資 Café」には利用者の様々な目的に柔軟に対応できる環境・設備が備わっている点が、最大の魅力である。さらに、「投資 Café」では、年齢や性別、投資に関する知識レベルに応じた対象者別の講演を実施することで、利用者は自分の関心に応じた講演を選択できるため、自分のペースに合わせて無理なく段階的に参加でき、モチベーションを保つことができるという特性も有している。

これらの方策を包括的、かつ機能的に実施することにより、投資に高い興味を示している学生に対しては投資に関する確かな知識を提供でき、また社会人等に対しては親近感や知識を与えることが可能となる。このスキームを継続的に実施し、教育を含めた広義の意味での投資環境の整備がわが国に浸透すれば、長期的・安定的な証券市場の活性化を達成することができると思う。

第1章 はじめに

現在、わが国では少子高齢化が進行しており、将来的に年金給付額が減少することが予測されている。これはわれわれ家計が毎月の年金に頼りながら生活を送ることが以前にもまして困難になることを意味する。また、わが国における家計の金融資産残高に占める現金・預金比率は諸外国に比べ高い水準にあるが、預金金利は低水準で推移しており、預金のみでお金を殖やすことは難しい現状にある。さらに企業においては、従来からの確定給付年金制度を採用する場合には様々なリスクを負うが、確定拠出年金制度は従業員が自己責任で運用する仕組みであり、企業はリスクを負うこともないため、確定拠出年金制度を導入する企業は年々増加している。このように、われわれが積極的に株式等への投資に目を向けることの必要性は年々、高まっている。

わが国ではこれまで様々な証券市場に関する規制緩和が実施されてきており、従前に比べ、投資しやすい環境は整備されつつある。しかし、依然として種々の理由により、個人が投資を積極的に行う動きは顕著には見られていない。

言うまでもなく、預貯金市場のお金を証券市場へシフトさせることが、必ずしも望ましいわけではない。しかしながら、昨今の金融危機から学ぶべき教訓の一つとして、金融危機を防止するためには金融機関による金融仲介を中心とした間接金融のみならず、証券市場を通じた直接金融もバランスよく機能することが必要であることが挙げられる。これにより、国内外の貯蓄の国内投資への資源配分が改善されるだけでなく、投資家にとってより効率的な資産運用や有効な金融リスク管理を行うことも可能になると思われる。

本稿でわれわれはこの立場に立脚し、わが国の証券市場を活性化させるために、投資に関する親近感や知識を享受するどのような枠組みが必要かということについて、アンケート調査（学生 324 人、社会人等 272 人）を基に提案する。

本稿の構成は以下の通りである。第2章でアンケート調査に基づいた考察を行い、これを基に第3章で学生向けの「2-Step 投資学習プログラム」、ならびに社会人等向けの「投資 Café」の創設を提案する。最後に第4章を結びとする。

第2章 アンケート調査に基づく考察

アンケート調査（詳細は参考資料 1、2 参照）は、現役の大学生、および社会人等（就業者、主婦（夫）、退職者等）を対象に実施した。大学生に関しては、福島大学の学生を対象に調査員が調査目的等を説明の上、アンケートの記入を依頼し、記入後に全対象者から回収した（324 人）。社会人等に関しては、訪問可能な対象者については調査員が訪問し、調査目的等を記載した用紙とアンケートを配布した。また、訪問できない対象者については、同内容を記載した用

紙とアンケートを郵送した。回収方法は「後日、調査員による回収」と「郵送」の選択式とした。回収率は80.9%（336人中272人）であった（表1）。

大学生については、70%が投資について学びたいと回答し（図1）、学生の投資関心は高いことがわかる。その一方で、大学の講義を受けて「投資をしてみたい」と思ったことがある学生は39%に留まる（図2）。その理由として、「そもそもそのような講義自体存在しない」「講義内容が不十分である」が39%、「リスクがある」が30%であった（図3）。これらの結果から、既存の形式の講義では投資への関心・知識を十分に得られないだけでなく、投資に対し高い関心を持つ学生のニーズに応えられる形式の授業を確立しなければ、社会人等になるまでに徐々に関心が薄れていく恐れもあると思われる。

一方、社会人等については有効回答者の67%が預貯金だけの資産運用に不安を感じ（図4）、54%が預貯金以外の資産運用を考えていること（図5）から預貯金以外の資産運用を考える社会人等は一定割合いることがわかる。投資学習意欲を持っている割合については学生の70%に対し、52%に低下し（図6）、実際に投資を行ったことがある割合は32%（図7）と低い水準に留まっていること、その最たる理由は「知識がない」であることがわかる（図8、注釈1）。投資知識を得る一つの方法として金融機関主催の投資セミナーがあるが、受講経験の割合はわずか12%である（図9）。以上から、既存の投資セミナーが投資への関心を喚起させるには十分に機能していないこと、また「基本的な知識の習得」や「気軽に行けるものにしてほしい」等のニーズと乖離している部分も存在すると推察される（図10）。

以上のアンケート結果から、学生・社会人等の間での投資興味に対する非対称的な現象（学生：70%、社会人等：52%）が一般的に成立すると想定し（注釈2）、また学生は近い将来に社会人等になることを考慮すれば、投資を長期的に活性化させるためには、学生、もしくは社会人等のどちらか一方を対象とした方策ではなく、双方をリンクさせた包括的な視点からの方策が必要不可欠となる。

次章では、アンケート分析から明らかとなった学生・社会人等の様々なニーズを反映させた提案を行う。具体的には、投資に高い興味を示している多くの学生のニーズを満たすべく、新しい大学投資教育として「2-Step 投資学習プログラム」の創設を、社会人等向けには投資に関する知識レベル、年齢、目的を問わず、誰でも気軽に訪れ、自分に合った方法で投資について学ぶことができる「投資Café」の創設を提案する。これらの提案の概念図は図11で表される。

第3章 投資活性化のための包括的提案

3-1 2-Step 投資学習プログラム

投資に高い興味をもっている学生に対する新しい大学投資教育として、図 12 で表される「2-Step 投資学習プログラム」を提案する。このプログラムの形式・内容はアンケート結果（注釈 3）（図 13～16）を基に設計し、「こんな授業があったら受けてみたい！」というわれわれ学生の希望を盛り込んだものである。

「2-Step 投資学習プログラム」は前期と後期の通年で実施する。前期は投資に関する基礎知識習得を目的とし、後期は投資の実践をテーマに、投資ゲームを行い、ポートフォリオの組み方を体感しながら学ぶ。通年の授業を行うことで、半期の授業に比べ、学生の投資知識・関心の更なる深化が期待できる。また、「投資について学んでいない自分には関係がない」と思っていた学生が「将来、投資をしてみたい」と思いはじめた時にでも受講できるように、投資に関する知識の程度、学年を問わず受講できる一般教養科目の授業として開講する。

授業形態は、前期・後期ともに平常講義とする。前期の授業内容は主に、①投資目的（ライフプラン等で自身が投資をする目的）、②経済情報の捉え方（経済指標等を用いて経済情勢を知る）、③投資の基礎知識（投資理論・金融商品について）、④個人投資家の体験談の 4 つとする。学生時分から基礎知識を体系的に学ぶ機会を設けることは、将来、投資を始めようと思った際に重要な糧となる。④では一般の投資家も授業に呼び、成功例だけでなく失敗談も含めて投資の経験談について話してもらう。投資家の生の声を聴くことは、投資についてのイメージを改めることや市場・金融機関の実情を知ることにつながり、学生時分のみならず社会人等になって実際に投資を行う際にも重要になると考える。

後期は少人数複数クラスに分け、実践的に学ぶ参加型形式で行う。授業内容は①長期的視点に基づく分散投資効果の理解、②投資ゲームの 2 本を柱とする。

①は実際の金融商品を例に、数年前から仮に各資産にこのくらい積み立てて投資を続けていたら、現在いくらになっているかということを経済データの基にした分析に基づき講師が説明する。分散投資をしてもその時の経済情勢により損失が出てしまうこともあるが、投資と投機の違いを十分に理解し、投資を行う際の戦略がリターンだけを追求するものだけではないことを学生に教えることは必要である（注釈 4）。

②の投資ゲームでは、①を踏まえて、クラス内で複数のチームを作り、実際にポートフォリオを組ませる。1 チーム当たりの仮想的な運用資金を決め（例えば、1 チーム 500 万円）、学生が作成したポートフォリオの運用状況は翌週の授業日までに公表される実際の相場から評価する。但し、運用状況の評価はリターンのみならずリスクも考慮し、それぞれ 50%ずつの評価配分とする。これは自己資金を用いない投資ゲームであるため、実質的なリスクが一切ない学生がリスクを考慮せずに、リターンのみを追求することを防ぎ、リスクとのバラ

ンスを考慮し、堅実なポートフォリオを組むことを目的としたプログラムの理念を維持するためである。また、学生が一年間を通して、プログラムに意欲的に参加し続けるインセンティブを高めるために、こうした評価基準の下、運用成績が上位だったチームを表彰する（例えば、1位～3位のチームにそれぞれ1万円、5000円、3000円相当の賞品）。さらには、プログラム終了後に日本銀行や証券取引所等への見学ツアーを実施する。投資に影響を与える政策・指標の現場に赴き、一年間学習してきたことと実社会とのつながりを自らの目、肌で実感することで、投資との関わりを以前よりも強く意識できる。

3-2 投資 Café

社会人等に向けた新たな投資学習の場として、「投資 Café」の創設を提案する。このCaféは、得られたアンケート結果（「対象を明確に」「基本的なことを教えてほしい」「気軽に行けるような身近なもの」「ニーズに合った開催形式」等（図10、17～19））を踏まえて、われわれが「こんなCaféがあったら、将来、仕事帰りに、休日に立ち寄ってみたい！」と思うような既存の投資セミナーにはない様々な魅力を有している（図20）。

第一に、自分の好きな時に好きなだけ投資について学べる環境が整っていることである。投資セミナーの多くは、事前予約が必要で、開催日時が予め決まっている単発開催であり、利用者に対し一定の制約を与えてしまう。それに対し、「投資 Café」は一日中投資について学習したい場合、仕事・学校帰り、空き時間など短い時間に気軽に学習したい場合等、それぞれの利用目的に柔軟に対応できる文字通りのCafé形式であるため、利用者の制約を緩和できる。

第二に、Caféには投資関連の書籍、雑誌やDVDを充実させ、飲食をしながらこれらを利用できるようにすると同時に、一定期日の借用も可能とする。DVDの内容については、先述した大学生向けの「2-Step 投資学習プログラム」の授業や後述する「投資 Café」内での「ミニ講演」等を収録したものとする。社会人等になってから、投資について一から学習することは根気のいることだが、体系的に学習する大学での授業等を視聴できれば、誰でも投資の知識を着実に蓄積させていくことが可能となる。この他にもインターネットに自由にアクセスできる環境を整備し、知りたい情報をその場ですぐに入手できるようにする。

第三に、Caféでは定期的にミニ講演を実施する。これは金融機関のCSR活動の一環として行う。既に、多くの金融機関には地域住民への金融教育を含む様々な活動の実績がある。社会に対して、こうした活動を継続的に行っていくことは、企業の社会的評価向上につながると考えられる。講演の内容は、昨今の経済情勢や投資の基礎知識、そして制度や手続きに至るまで幅広く取り扱う。そ

の他に、年齢や性別、投資に関する知識レベルに応じた対象者別の講演も実施する。同じ関心を持つ参加者が集うことで意見交換の場としても機能する。また、利用者は自分の関心に応じた講演を選択できるため、自分のペースに合わせて無理なく段階的に参加でき、モチベーションを保つことができる。

3-3 講師・運営者

「2-Step 投資学習プログラム」の講師と「投資 Café」の運営には、以上のスキームに賛同する同一の金融機関が携わる。金融機関にはそれ相応のコストがかかることになるが、「2-Step 投資学習プログラム」で満足する講義が受けられたと感じた学生や「投資 Café」で各々のニーズに合ったきめ細やかな諸々のサービスを楽しんだ社会人等が、実際に投資を行おうと思った際にこの金融機関を選択する可能性が高まるというメリットがもたらされる。また、これは先述した CSR 活動による社会的評価の更なる向上にもつながると思われる。

このように、同一の金融機関が双方に携わることで、「2-Step 投資学習プログラム」と「投資 Café」を包括的、かつ機能的に実施することが可能となり、投資教育の場として高く機能すると思われる。

第4章 おわりに

わが国における家計の金融資産残高に占める現金・預金比率は、諸外国に比べ高い水準にある。しかしながら、これはリスク回避度を反映した家計の最適化行動の結果であるかもしれない。その場合、貯蓄を投資へ促す諸政策は合理的なものとは言えない。その一方で、個人に投資を行いたいという意思があるものの、実際に投資を行わない理由が、投資環境が十分でないことにあるならば、投資に関する環境を整備する方策こそ、いまのわが国に必要なことである。

本稿では実施したアンケートの結果より、わが国は後者の状況下にあると考え、証券市場を活性化させる上で必要となる環境整備（投資に関する親近感や知識を与える方策）として、「2-Step 投資学習プログラム」と「投資 Café」の創設を提案した。これらを包括的、かつ機能的に実施することにより、投資に高い興味を示している学生に対しては投資に関する確かな知識を提供でき、社会人等には投資に対する親近感や知識を与えることが可能となる。

本稿でのスキームを継続的に実施し、教育を含めた広義の意味での投資環境を整えてはじめて、わが国の証券市場は活性化すると考える。

われわれの提案は、アンケート調査から得られた様々な人々の金融教育に対する活きた「声」を反映したものである。われわれの提案するスキームが、わが国において新たな金融教育を生み出す一つの契機となることを期待したい。

<謝辞>

本稿を執筆するにあたり、われわれのアンケート調査にご協力頂いたすべての回答者の方々、学生アンケートの実施にご協力頂いた福島大学経済経営学類の先生方、ならびに福島大学経済経営学類後援会に感謝の意を表したい。

<参考 URL>

- ・金融庁「金融機関の CSR 事例集」等の公表について
(<http://www.fsa.go.jp/news/20/ginkou/20090331-7.html>)
- ・厚生労働省 確定拠出年金制度
(<http://www.mhlw.go.jp/topics/bukyoku/nenkin/nenkin/kyoshutsu/>)
- ・日本銀行「資金循環統計（2013 年第 2 四半期速報）」
(<http://www.boj.or.jp/statistics/sj/>)

<注釈>

注釈 1: 投資意欲・経験の有無の決定要因を明らかにするために、学生アンケート、ならびに社会人等アンケートについてクロス集計を行った。その結果、社会人等については、余剰資金の有無が投資経験の有無に大きな影響を及ぼしていることが明らかとなった（参考資料 4、および 6 を参照）。しかしながら、本稿では学生時分には投資に関し、高い関心度を示す一方で（図 1）、社会人等になるとその割合が低下すること（図 6）、ならびに既存の講義に対する学生の不満（図 2、3）や「知識がない」ことを理由に投資を行わない割合が最も高いこと（図 8）に着目し、金融（投資）教育環境の整備が将来の投資経験（証券市場の活性化）に影響を及ぼすという想定の下、分析を行った。

注釈 2: この違いには各アンケート回答者の時代背景（バブル崩壊を経験しているかどうか等）の要因が大きく関係していると思われる。したがって、本当にこの想定が妥当かどうかは、同一の各回答者に対し、学生時代、社会人等になってからの異時点間でアンケートを実施し、エピソードデータを作成し、分析することではじめて確かめることができよう。

注釈 3: 学生アンケート（参考資料 1 参照）の設問 16～19 において、「外部講師を招き、学内で投資について学習する機会があると想定」した場合、どのような形式・内容であれば参加したいと思うかについて選択式で尋ねた。

注釈 4: 現在、全国の多くの大学において、各種金融機関による様々な提供講座が開催されている。「2-Step 投資学習プログラム」とこれら既存の講座との最大の相違点は、講義を通して受講生に習得して欲しい内容（堅実なポートフォリオの組み方等）を、「具体的に」大学側が金融機関に提示することである。

< 図表 >

表 1 アンケート調査の概要

	学生アンケート	社会人等アンケート
調査時期	2013年7月	2013年7月～8月
調査対象	福島大学・学生	社会人等
配布方法	直接	直接または郵送配布
回収方法	直接	直接または郵送回収
配布数	324件	336件
回収数	324件	272件

図 1 学生の投資学習意欲 (参考資料 1、設問 14)

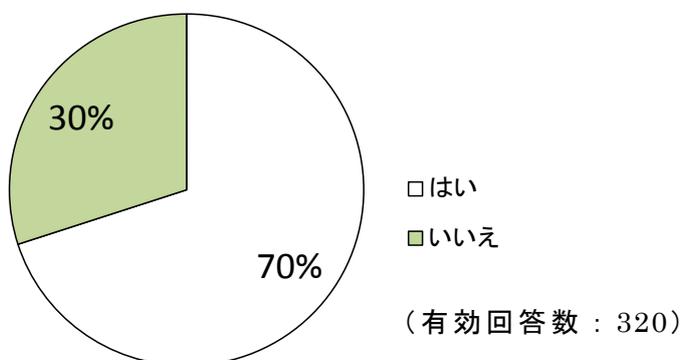


図 2 講義を受けて「投資をしてみたい」と思ったことがある学生 (参考資料 1、設問 15)

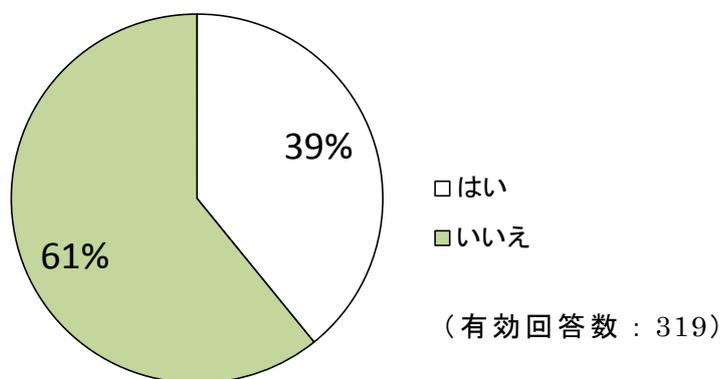


図3 講義を受けても「投資をしてみたい」と思わない理由
 (参考資料1、設問15で「いいえ」と回答した学生)

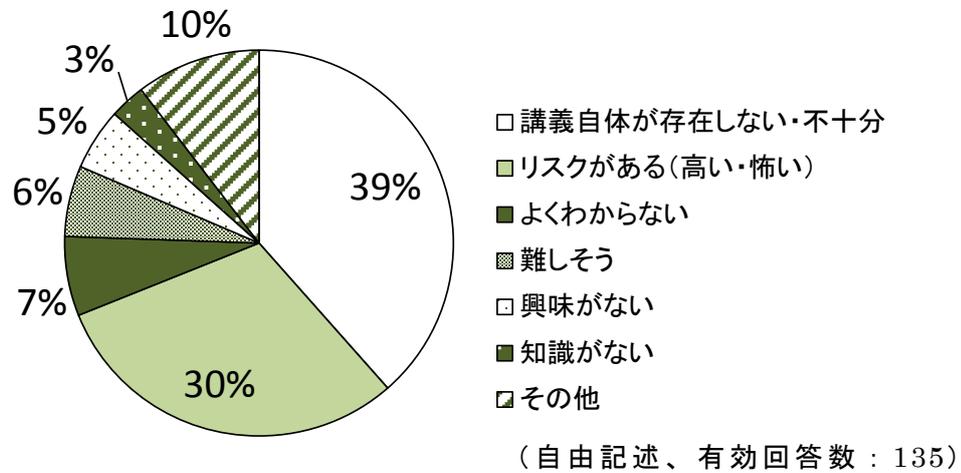


図4 預貯金以外の資産運用に対する不安 (参考資料2、設問21)

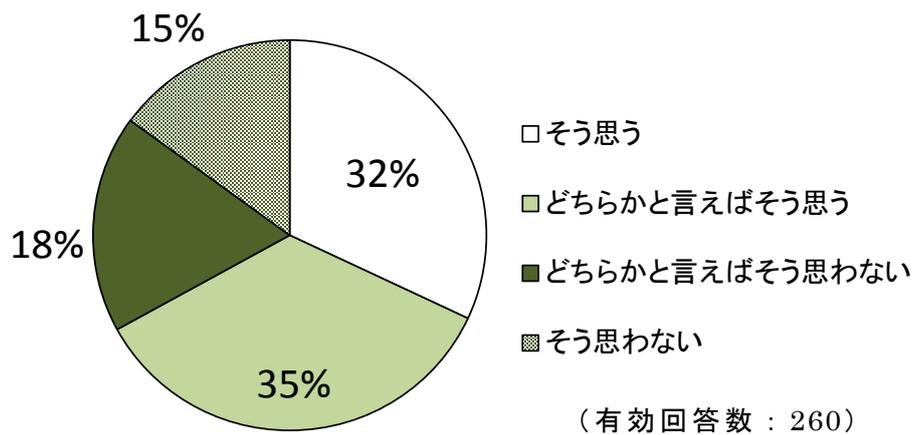


図5 社会人等の資産運用に対する考え方 (参考資料2、設問22)

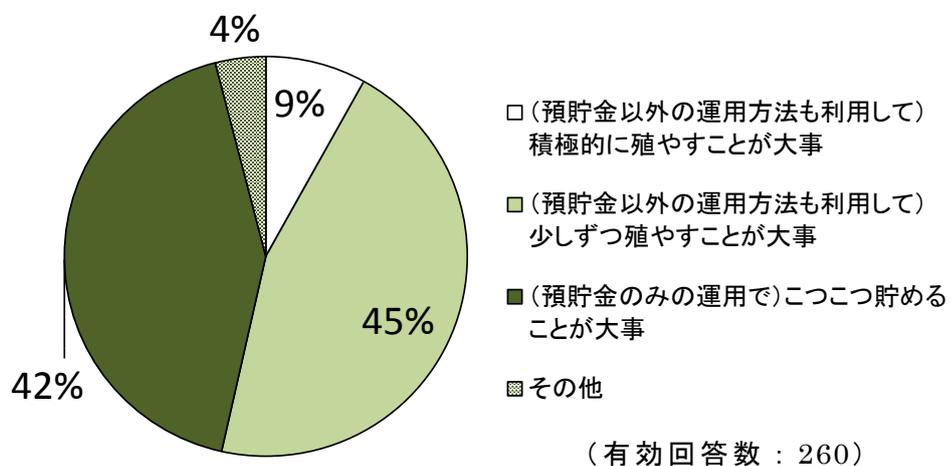


図 6 社会人等の投資学習意欲（参考資料 2、設問 23）

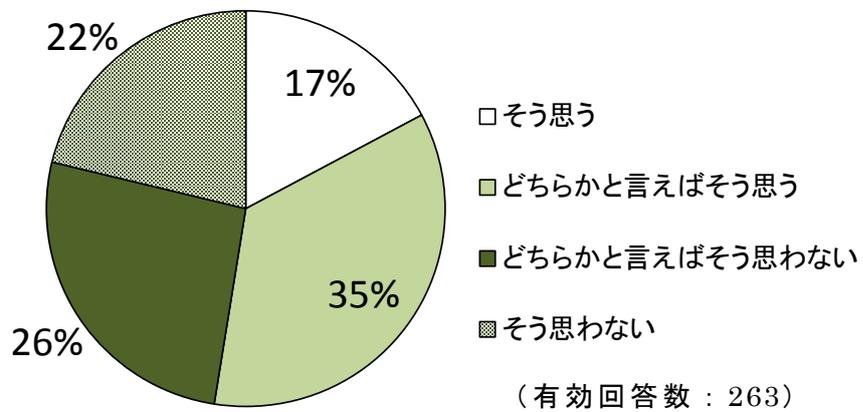


図 7 社会人等の投資経験（参考資料 2、設問 13）

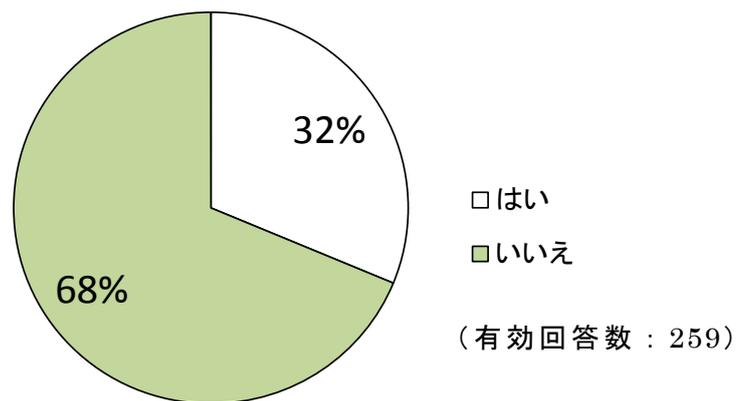


図 8 投資をしない理由（参考資料 2、設問 20）

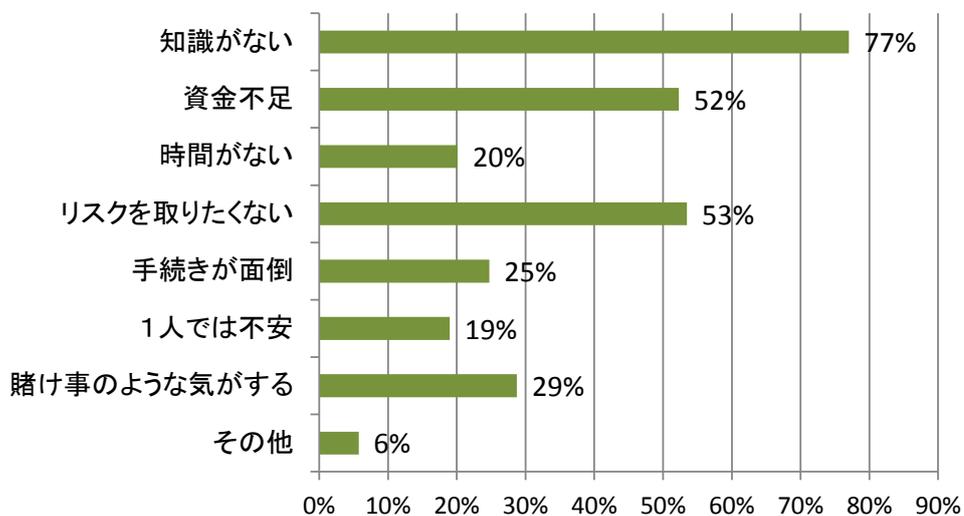


図 9 投資セミナー受講経験（参考資料 2、設問 27）

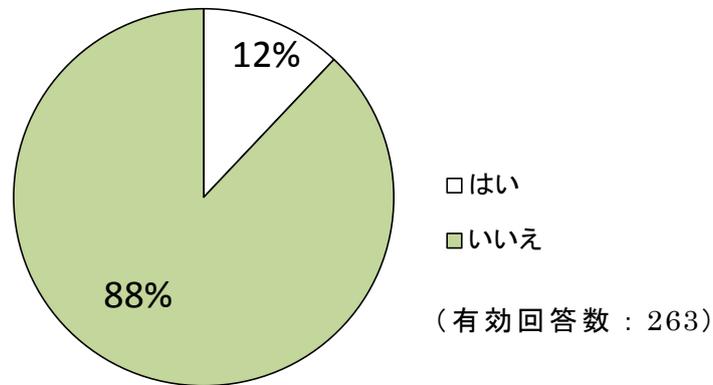


図 10 投資セミナーに対する要望（参考資料 2、設問 33）

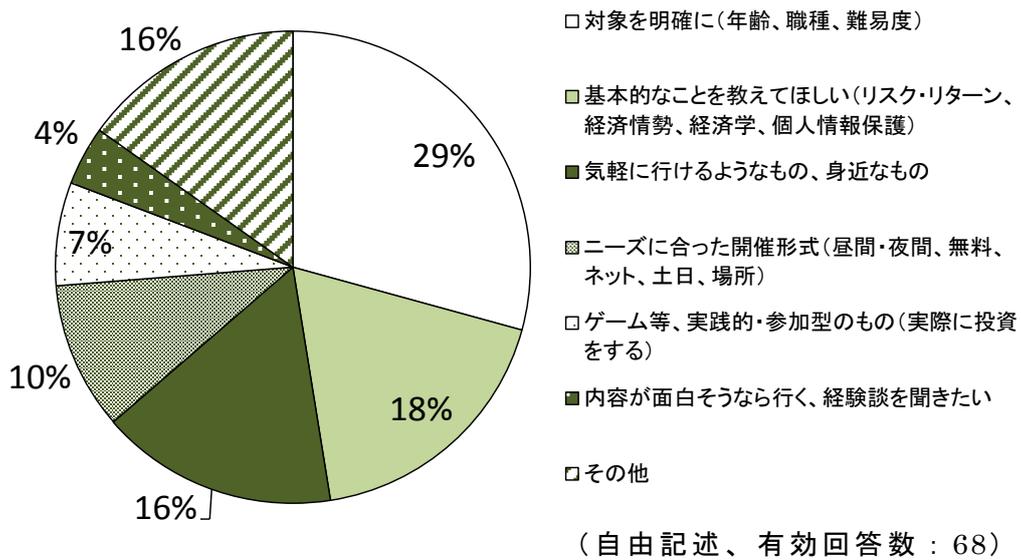


図 11 本稿における提案による投資活性化の波及チャネル

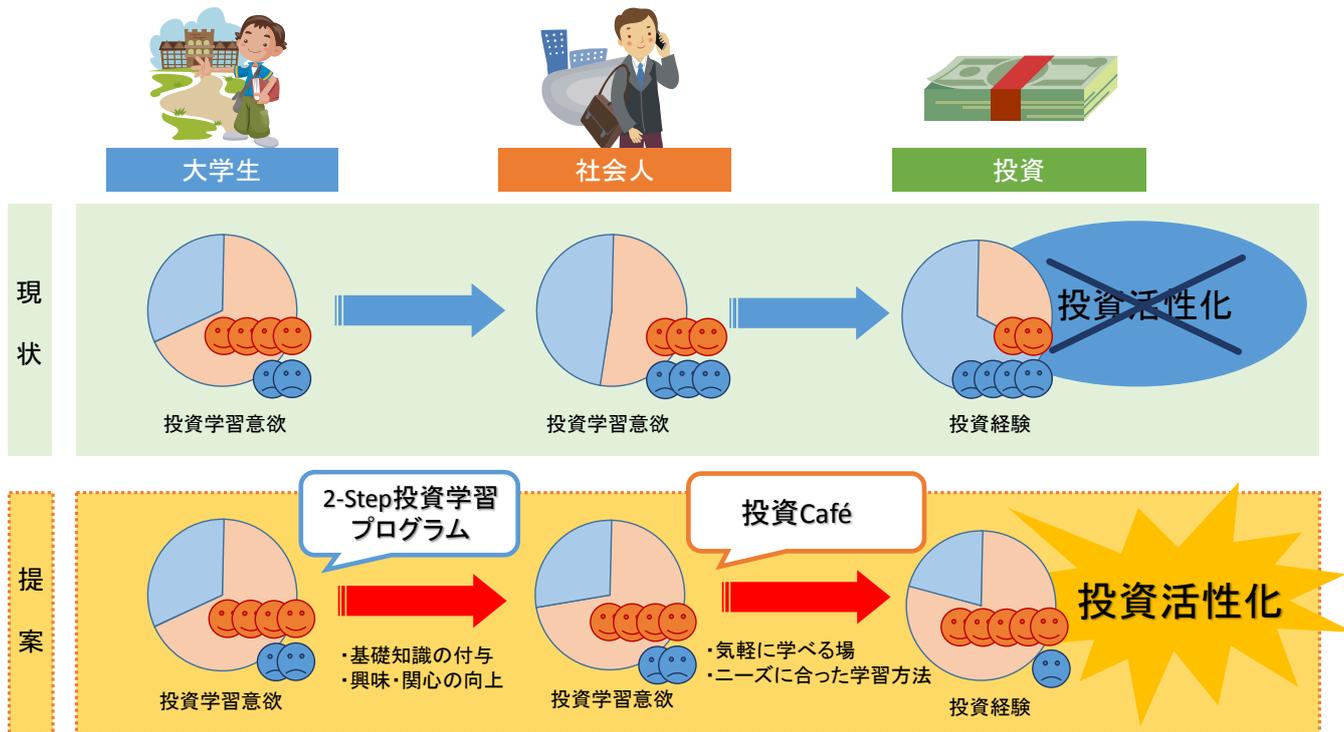


図 12 2-Step 投資学習プログラム（概念図）

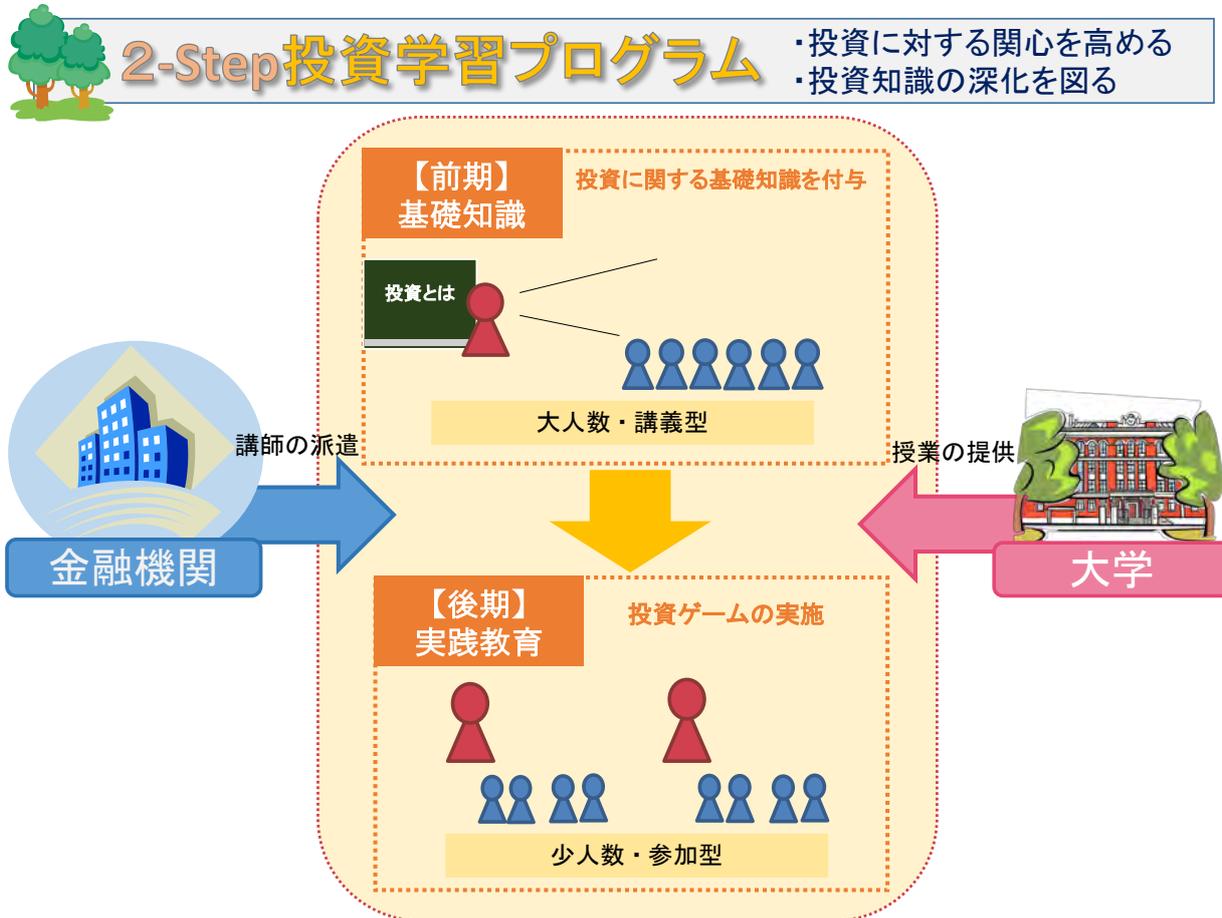


図 13 学生の望む講義形式（参考資料 1、設問 16）

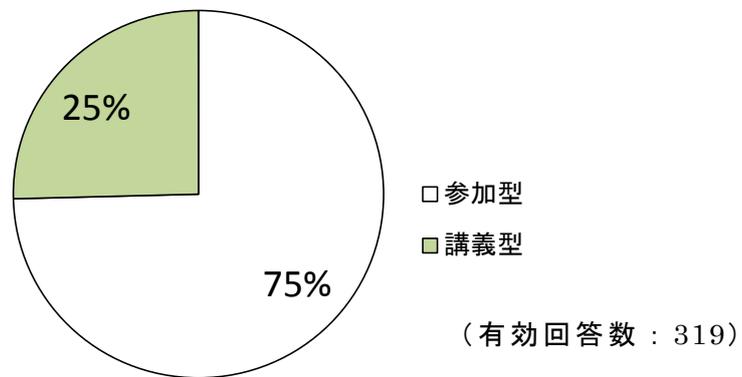


図 14 学生の望む授業規模（参考資料 1、設問 17）

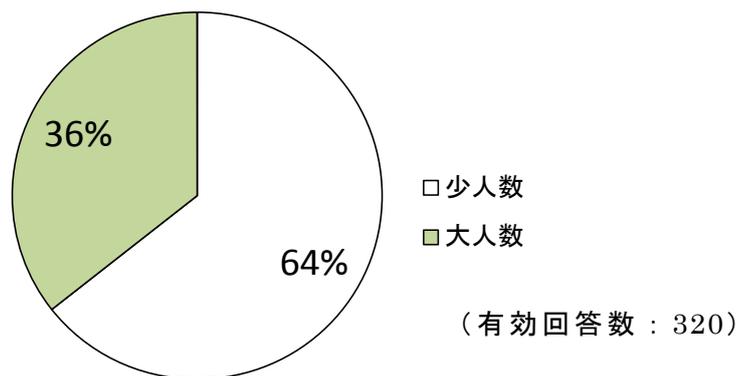


図 15 学生の望む講義形態（参考資料 1、設問 18）

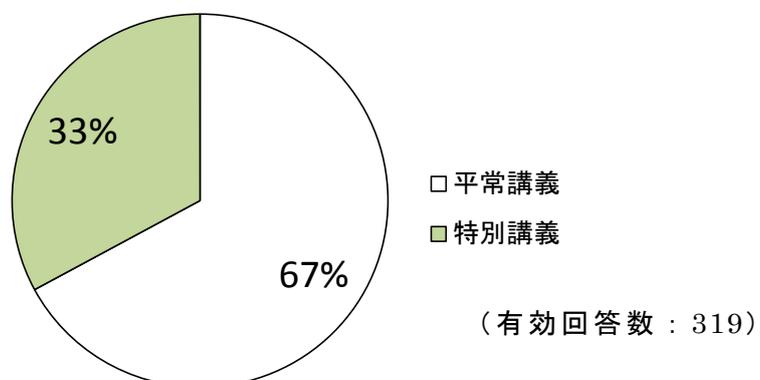
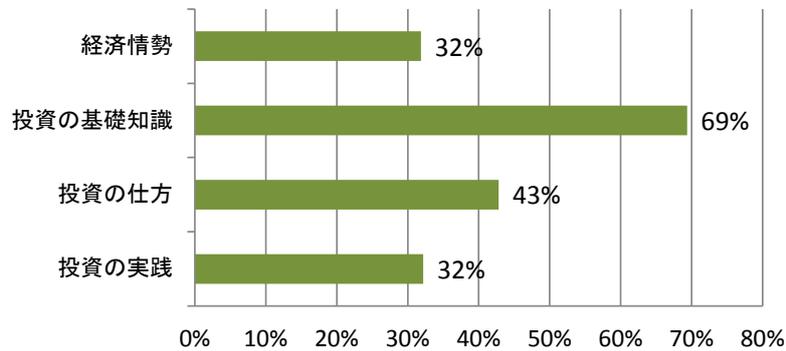
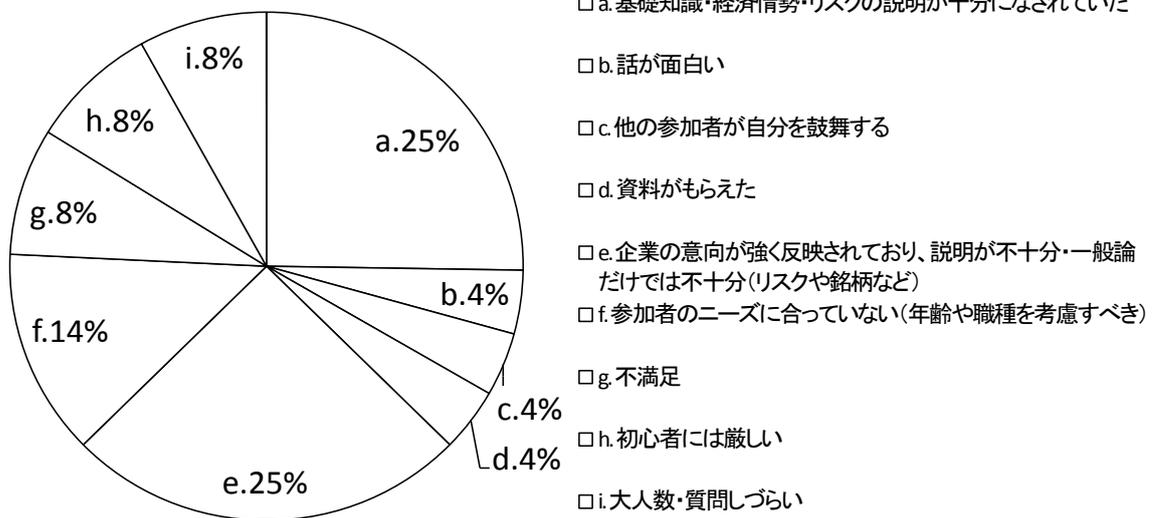


図 16 学生が講義で重点を置いて学びたい項目（参考資料 1、設問 19）



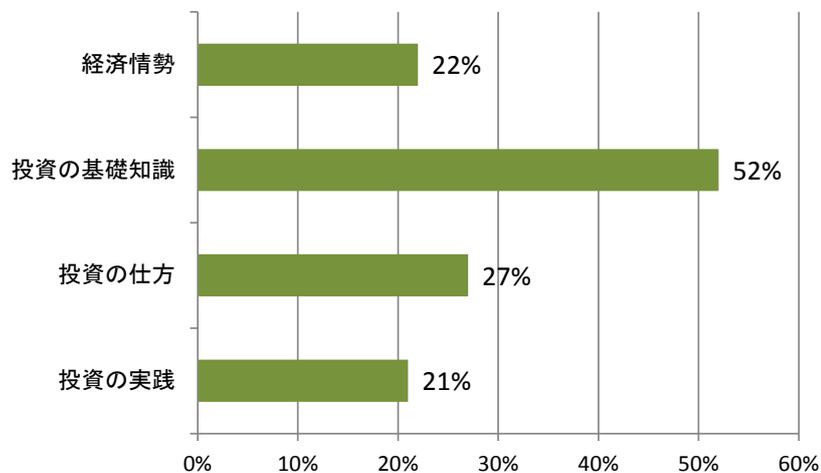
（2つまで回答可、有効回答数：320）

図 17 投資セミナーの感想（参考資料 2、設問 29）



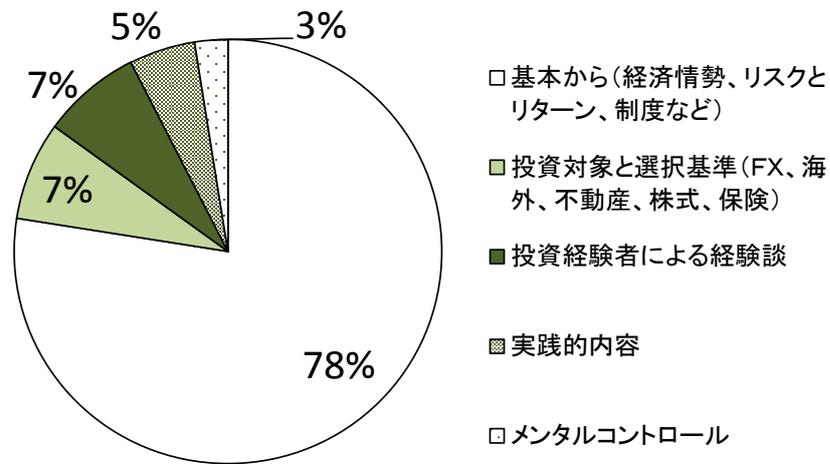
（有効回答数：24）

図 18 投資セミナーで重点を置いて学びたい項目（参考資料 2、設問 30）



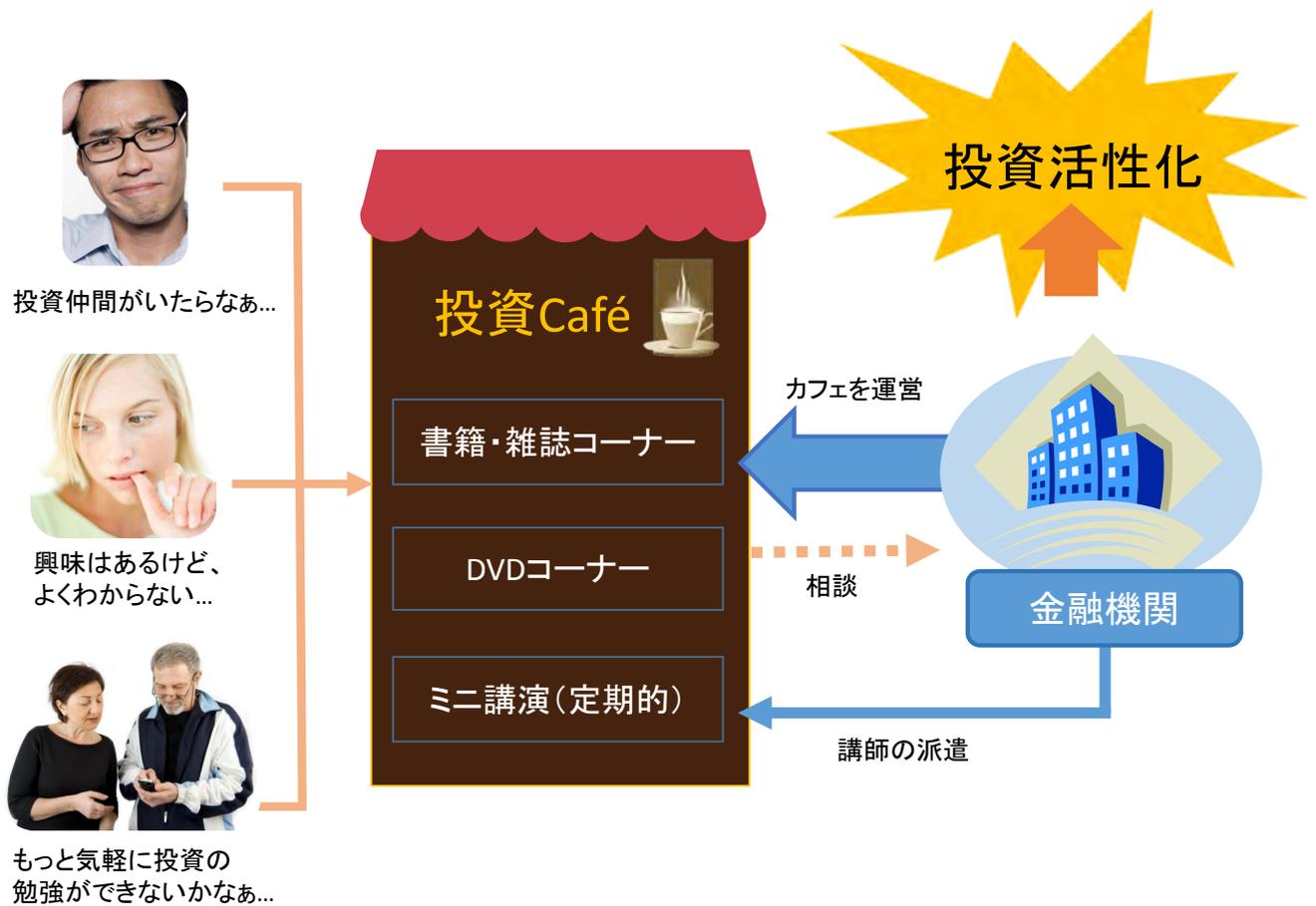
（複数回答可、有効回答数：251）

図 19 その他に重点を置いて学びたい項目（参考資料 2、設問 31）



（自由記述、有効回答数：40）

図 20 投資 Café（概念図）



< 参考資料 1 (学生対象アンケート) >

投資教育に関するアンケート

経済経営学類

熊本ゼミ

稲村・鈴木(慧)・鈴木(拓)・田中

- ・現在、ゼミ活動の一環として「**株式・債券等の有価証券への投資教育**」について研究しています。
- ・この研究調査用データとして福島大学の学生の方を対象にアンケートを実施させて頂くことと致しました。
- ・つきましては大変恐縮ではございますが、アンケート用紙にご回答頂きたくお願い申し上げます。
- ・記入によって得られた個人情報は私たちの研究目的以外に使用することは**ございません**ので、ご理解の程お願い致します。



Q1 あなたの学類を教えてください。

- a. 人間発達文化学類
- b. 行政政策学類
- c. 経済経営学類
- d. 共生システム理工学類
- e. 現代教養コース

Q2 あなたの学年を教えてください。

() 年

Q3 あなたの性別を教えてください。

- a. 男
- b. 女

Q4 あなたにはどれくらいの預貯金（有価証券等への投資を除く）がありますか。

約 () 万円

Q5 現在「余っている」と感じるお金（当面、使途が決まっていないお金）はありますか。

- a. はい
- b. いいえ

Q6 その額はいくらですか。

約 () 万円

Q7 あなたの投資に対するイメージを教えてください。(複数回答可)

- a. 面白そう b. リスクがある c. 内容が難しそう
- d. 親近感がない e. 多額の資金が要る f. 手続きが面倒
- g. 賭け事のような h. その他 ()

Q8 将来、投資をしてみたいと思いますか。

- a. はい
- b. いいえ

Q9 株を持っていることによって得られる優待制度(一定の株を保有する者に対して、商品券、割引券、自社製品、サービス等を提供する制度)を知っていますか。(Ex. 吉野家の3,000円分食事券、ANAの搭乗50%割引)

- a. はい
- b. いいえ

Q10 インターネットからでも投資が出来るということを知っていますか。

- a. はい
- b. いいえ

Q11 少額からでもできる投資を知っていますか。(Ex. 個人向け国債、FX(外国為替証拠金取引。外国の通貨を売買し、利益を得る取引。))

- a. はい
- b. いいえ

Q12 投資をすることによって被る恐れのあるリスクを知っていますか。

(Ex. 投資した時の価格よりも売却時の価格が低い事による売買損失、市場での不測の事態により、売りたい時にすぐ売れない)

- a. はい
- b. いいえ

Q13 確定拠出年金制度を導入している企業が年々増えていることを知っていますか。

※確定拠出年金制度とは…

加入者が掛金を自分で運用し、その運用結果によって退職時にもらえる給付額が変動する制度のこと。2013年4月末時点で約17,000社が施行。ただし、運用がうまくいかなかった場合でも、企業は補償せず、自己責任になる。

- a. はい
- b. いいえ

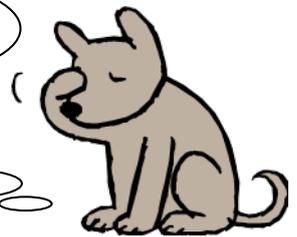
Q14 Q9~13を踏まえて、学生のうちから投資について学びたいと思いましたが。

- a. はい
- b. いいえ

Q15 大学の講義を受けて「投資をしてみたい」と思ったことがありますか。

- a. はい
- b. いいえ（理由： ）

次の質問からは、外部講師を招き、学内で投資について学習する機会があると想定してお答えください。



Q16 参加型と講義型のどちらの形式がよいですか。

- a. 参加型（実践的に学ぶ） Ex. 投資ゲーム、投資シミュレーションなど
- b. 講義型（理論や知識を学ぶことに特化）

Q17 規模はどのくらいがよいですか。

- a. 少人数
- b. 大人数

Q18 どちらの形式の講義に参加したいですか。

- a. 特別講義（単位はもらえないが、自分の出たい回に出席できる）
- b. 平常講義（毎回出席はあるが、単位がもらえる）

Q19 次のうち、どの項目に重点を置いて学びたいですか。（2つまで）

- a. 経済情勢（Ex. 統計情報）
- b. 投資の基礎知識（Ex. 金融商品の種類、投資の理論）
- c. 投資の仕方（Ex. 手続き、チャートの見方）
- d. 投資の実践（Ex. 銘柄研究）

以上で質問は終わりです。

ご協力ありがとうございました！

<参考資料 2 (社会人等対象アンケート)>

投資に関するアンケート

福島大学 経済経営学類

熊本ゼミ 鈴木(慧)・稲村・鈴木(拓)・田中

- ・現在、ゼミ活動の一環として「**株式・債券等の有価証券への投資環境**」について研究しています。
- ・この研究調査用データとして学生以外の皆様を対象にアンケートを実施させて頂くことと致しました。
- ・つきましては大変恐縮ではございますが、以下の質問にご回答頂きたくお願い申し上げます。
- ・なお、記入によって得られた個人情報は本研究目的以外に使用することはございません。また、当該アンケートは厳重に保管させて頂き、情報漏えいが生じないよう細心の注意を払いますので、ご理解の程宜しくお願い致します。
- ・回答は該当するものに○をつけ、指定の番号へ進む指示がない限り、設問順に進んで下さい。(設問によって必要がある場合には、文字や数字をお書き下さい。)

I 属性に関する質問

- Q1 あなたの性別を教えてください。
a. 男 b. 女
- Q2 あなたの年齢を教えてください。
() 代
- Q3 あなたの職種を教えてください。
a. 農林水産業 b. 鉱業 c. 建設業 d. 製造業 e. 運輸業
f. 情報通信業 g. 金融・保険業 h. 電気・ガス・熱供給・水道業
i. 卸売・小売業 j. 不動産業 k. 医療・福祉 l. 飲食・宿泊業
m. 教育・学習支援業 n. サービス業 o. 主婦(夫) p. 無職
q. その他 ()
- Q4 結婚はしていらっしゃいますか。
a. はい b. いいえ
- Q5 お子さんはいらっしゃいますか。また、何人いらっしゃいますか。
a. はい () 人 b. いいえ
- Q6 お住まいの地域はどちらですか。
() 都・道・府・県

Q7 あなたには（結婚されている方は家計全体で）どれくらいの預貯金がありますか。

約（ ）万円

Q8 Q7でお答え頂いた預貯金額のうち、現在、余剰資金（当面用途が決まっていないお金）はありますか。

a. はい b. いいえ

Q9 Q8で「a. はい」と答えた方にお聞きします。その額はおいくらですか。

約（ ）万円

II 投資に関する質問

Q10 あなたの投資に対するイメージを教えてください。（複数回答可）

- a. お金を殖やせる b. 面白そう c. 企業に貢献できる
d. 株主優待が魅力的 e. リスクがある f. 内容が難しそう
g. 多額の資金が要る h. 少額からでもできる i. 親近感がない
j. 知識が必要 k. 賭け事のような l. 手続きが面倒
m. その他（ ）

Q11 日常的に投資に関する情報を入手されていますか。

a. はい b. いいえ

Q12 Q11で「a. はい」と答えた方にお聞きします。情報源は何ですか。（複数回答可）

- a. セミナー b. インターネット c. 本 d. 雑誌
e. 金融機関 f. 新聞 g. その他（ ）

Q13 これまでに投資をしたことがありますか。

a. はい b. いいえ →はいの方は Q14、いいえの方は Q20
へ進んで下さい。

Q14 現在も投資をしていますか。

a. はい b. 過去にしたことはあるが、現在はしていない

Q15 Q14で「b. 過去にしたことはあるが、現在はしていない」と回答された方にお聞きします。現在投資をしていない理由は何ですか。（複数回答可）

- a. 損をして投資を続けるのが嫌になったから
b. 投資をすることに疲れを覚えたから
c. 投資について十分な知識が得られていないと分かったから
d. 経済情勢の変化 e. 投資をする時間が取れなくなったから
f. 過去の投資で十分な利益を得られたから
g. 投資に回せるお金がなくなったから h. その他（ ）

Q16 保有している（保有していた）金融商品の種類は何ですか。（複数回答可）
a. 株式 b. 国債 c. 社債 d. 投資信託 e. FX（外国為替証拠金取引）
f. その他（ ）

Q17 投資をしようと思ったきっかけをお聞かせください。（複数回答可）
a. お小遣い稼ぎ
b. 不測の事態に備えてお金を殖やしておきたいと思ったから
c. 将来必要となる資金を調達したいと思ったから
d. 経済情勢が大きく変化したから
e. 1度は経験してみたかったから f. 勤務先の投資教育を受けて
g. 議決権を有することで、企業の経営に間接的に関わってみたかったから
h. 株主優待を受けたかったから i. 資金に余裕ができたから
j. 投資セミナーに参加して k. 金融機関で勧められて
l. 投資に関するキャンペーン広告を目にして m. 知人に誘われて
n. その他（ ）

Q18 どのようにして投資の知識を学ばれましたか。（複数回答可）
a. セミナー b. インターネット c. 本 d. 雑誌
e. 金融機関 f. 新聞 g. その他（ ）

Q19 実際に投資をされてみてのご意見・ご感想をお聞かせください。

()

→Q21へ進んで下さい。

Q20 投資をしない理由は何ですか。（複数回答可）
a. 知識がない b. 資金不足 c. 時間がない
d. リスクをとりたくない e. 手続きが面倒 f. 一人では不安
g. 賭け事のような気がする h. その他（ ）

Q21 将来のことを考えると、預貯金だけの運用に不安を感じますか。
a. そう感じる b. どちらかと言えばそう感じる
c. どちらかと言えばそうは感じない d. そう感じない

- Q22 あなたの資産運用に対する考え方を教えてください。
- a. (預貯金以外の運用方法も利用して)積極的に殖やすことが大事
 - b. (預貯金以外の運用方法も利用して)少しずつ殖やすことが大事
 - c. (預貯金のみの運用で)こつこつ貯めることが大事
 - d. その他 ()

- Q23 投資について詳しく学びたいと思いますか。
- a. そう思う
 - b. どちらかと言えばそう思う
 - c. どちらかと言えばそうは思わない
 - d. そう思わない
- Q24 投資について学ぶ場が身近にあれば、行きたいと思いますか。
- a. そう思う
 - b. どちらかと言えばそう思う
 - c. どちらかと言えばそうは思わない
 - d. そう思わない

Ⅲ 投資セミナーに関する質問

- Q25 投資セミナーが各地で開催されていることを知っていますか。
- a. はい
 - b. いいえ
- Q26 Q25で「a. はい」と答えた方にお聞きします。それはどのようにして知りましたか。(複数回答可)
- a. テレビ
 - b. 雑誌
 - c. インターネット
 - d. 新聞
 - e. 金融機関
 - f. 地元の広報誌
 - g. その他 ()
- Q27 投資セミナーに行ったことがありますか。
- a. はい
 - b. いいえ

→はいの方は Q28、いいえの方は Q30 へ進んで下さい。

- Q28 投資セミナーに参加した理由は何ですか。
- a. 現在投資をしていて、さらに知識を増やしたいと思ったから
 - b. 投資を始めたいと思ったから
 - c. すぐに投資を始めるつもりはないが、投資について関心があったから
 - d. その他 ()

- Q29 参加された投資セミナーのご感想(良かった点、不満等)をお書きください。

()

◎以下、あなたが身近で開催されている投資セミナーに参加すると想定してお答えください。

Q30 次のうちの項目に重点を置いて学びたいですか。

- a. 経済情勢（例：統計情報）
- b. 投資の基礎知識（例：金融商品の種類、投資の理論）
- c. 投資の仕方（例：手続き、チャートの見方）
- d. 投資の実践（例：銘柄研究、テクニック）

Q31 他に重点を置いて学びたいことがあれば、お書きください。

()

Q32 どのような形式がいいですか。

- a. 実践型（例：専門家のアドバイスを受けながら、実際にその場で投資を行う）
- b. シミュレーション型（例：投資ゲーム、投資シミュレーション）
- c. 講義型（理論や知識を学ぶことに特化）
- d. その他（)

Q33 その他、投資セミナーに関して、あなたのご意見・ご要望をお書きください。

（例：「…だったら参加しやすい」「…なら行ってみたい」「…したほうがよい」）

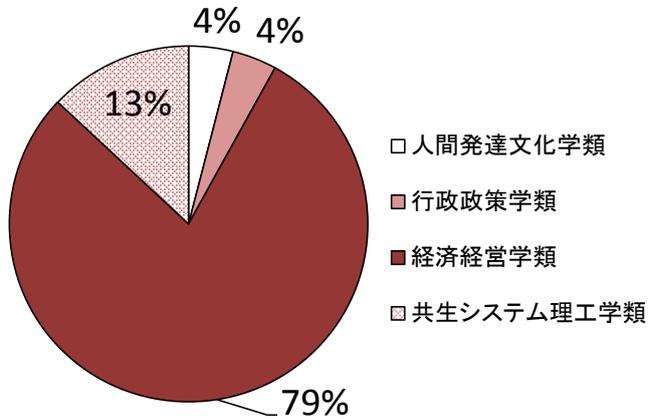
()

ご協力ありがとうございました。

<参考資料3（学生対象アンケート【単純集計結果】）>

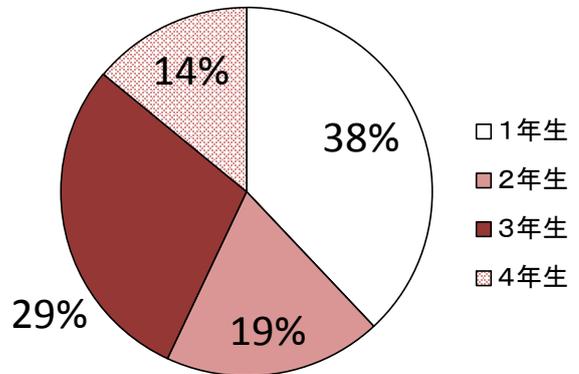
Q1 あなたの学類を教えてください。

（有効回答数：324）



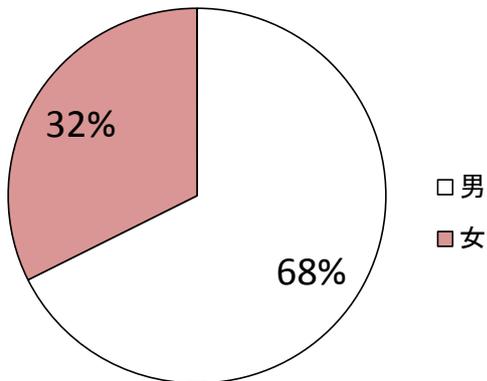
Q2 あなたの学年を教えてください。

（有効回答数：324）

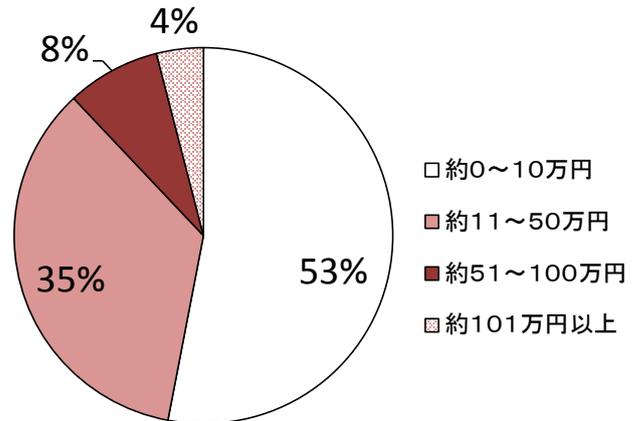


Q3 あなたの性別を教えてください。

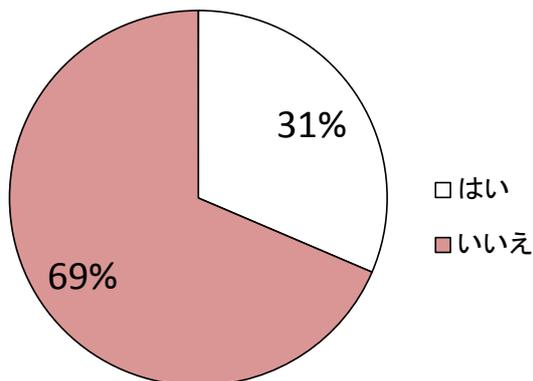
（有効回答数：324）



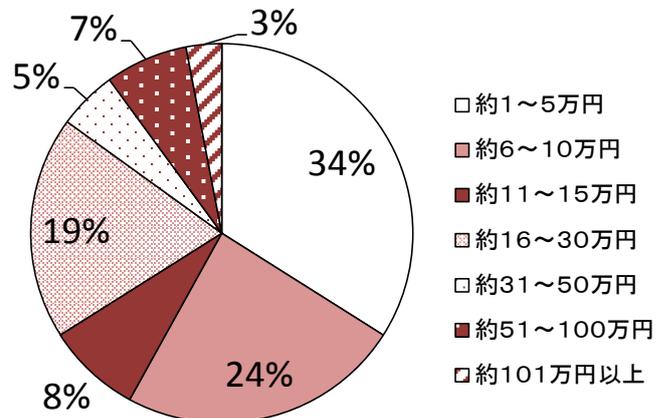
Q4 あなたにはどれくらいの預貯金がありますか。（有効回答数：304）



Q5 現在、「余っている」と感じるお金はありますか。（有効回答数：321）

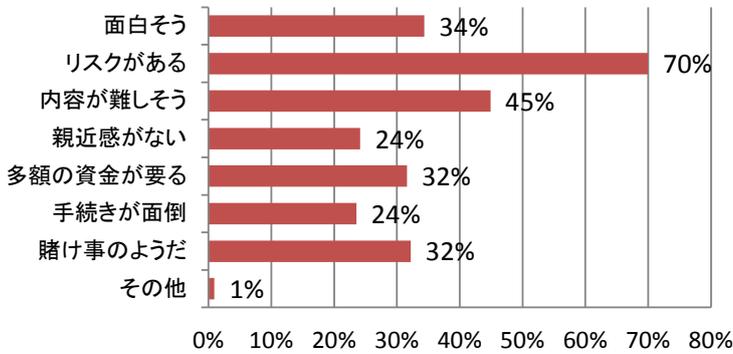


Q6 その額（Q5）はいくらですか。（有効回答数：95）

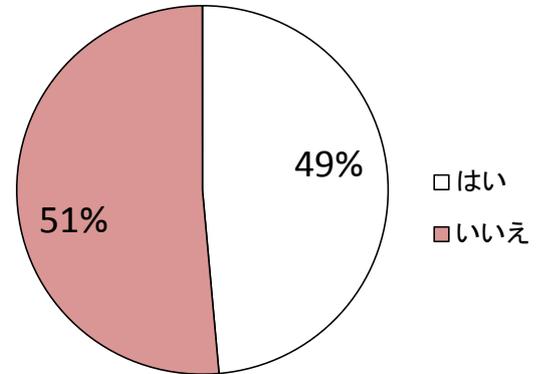


Q7 あなたの投資に対するイメージを教えてください。

(複数回答可、有効回答数：323)

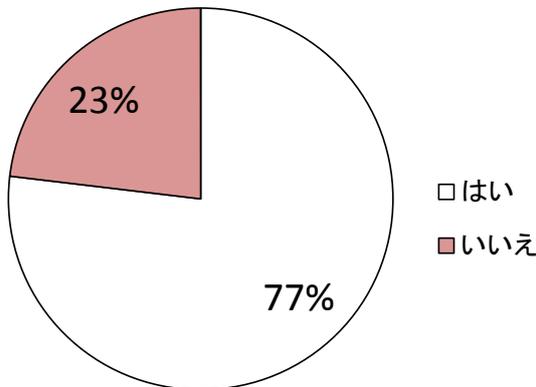


Q8 将来投資をしてみたいと思いますか。(有効回答数：317)



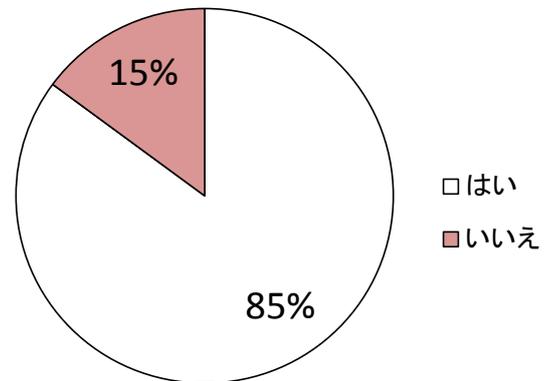
Q9 株を持っていることによって得られる優待制度を知っていますか。

(有効回答数：316)



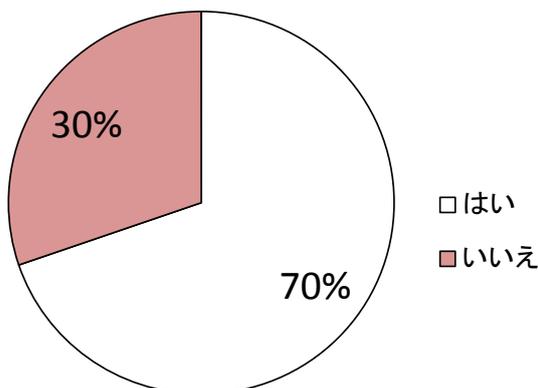
Q10 インターネットからでも投資が出来るということを知っていますか。(有効回答数：316)

(有効回答数：316)



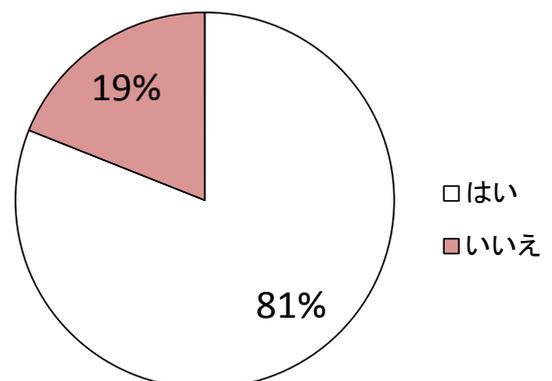
Q11 少額からでも出来る投資を知っていますか。(有効回答数：317)

(有効回答数：317)

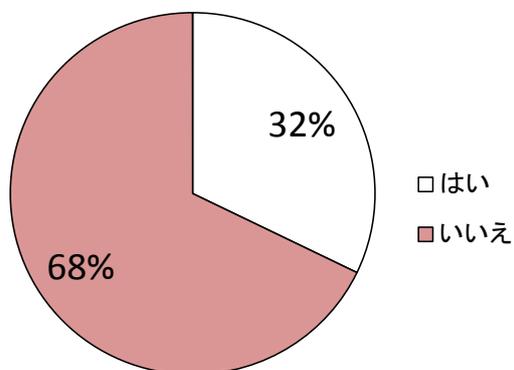


Q12 投資をすることによって被る恐れのあるリスクを知っていますか。

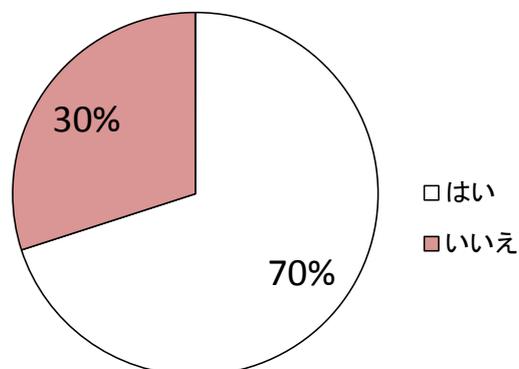
(有効回答数：317)



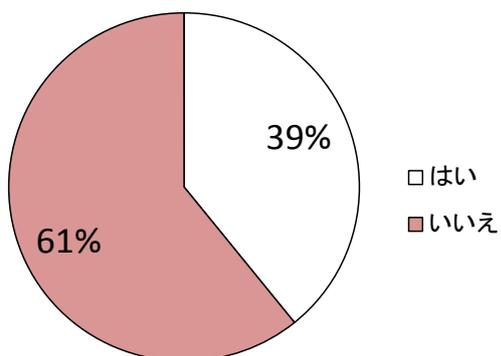
Q13 確定拠出年金制度を導入している企業が年々増えていることを知っていますか。(有効回答数：317)



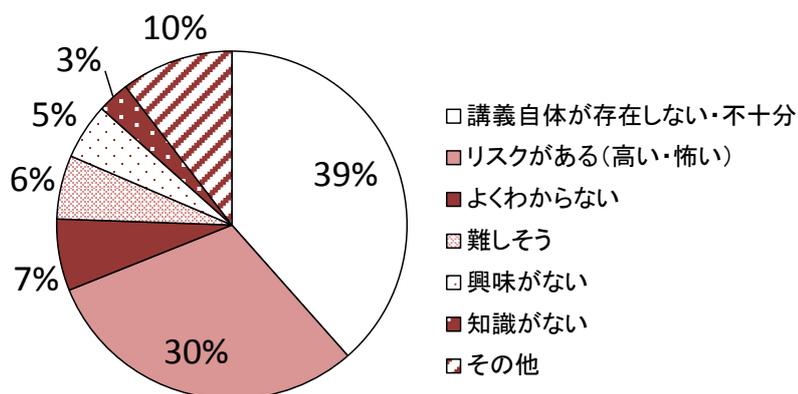
Q14 Q9~13を踏まえて、学生のうちから投資について学びたいと思いませんか。(有効回答数：320)



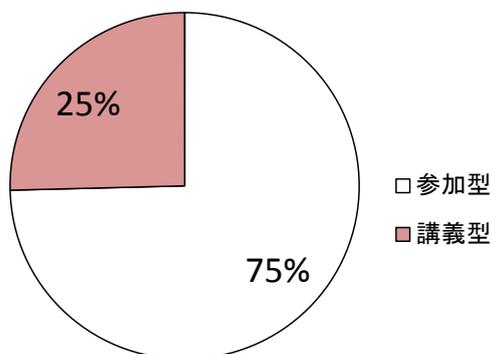
Q15 大学の講義を受けて「投資をしたい」と思ったことがありますか。(有効回答数：319)



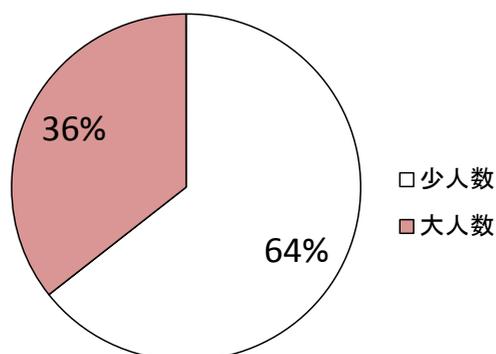
Q15で「いいえ」と答えた方の理由(自由記述、有効回答数：135)



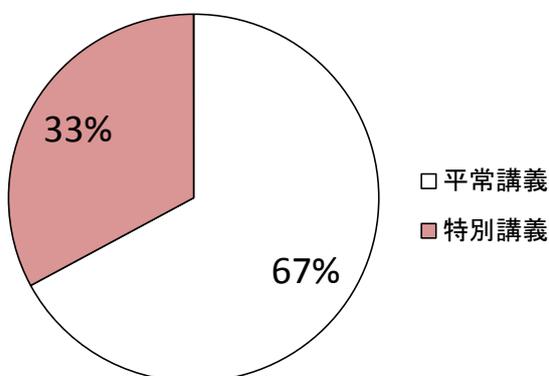
Q16 参加型と講義型のどちらの形式がよいですか。(有効回答数：319)



Q17 規模はどのくらいがよいですか。(有効回答数：320)

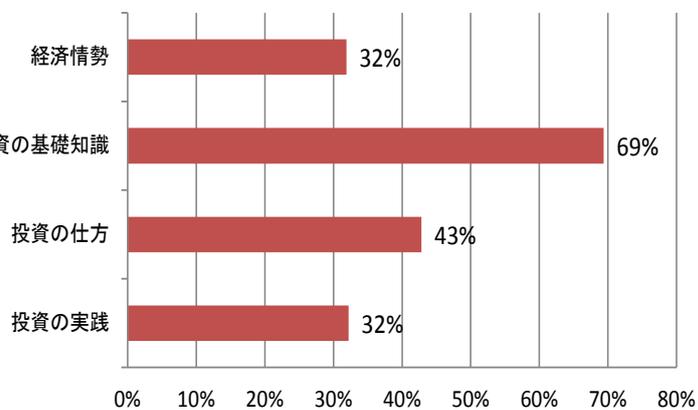


Q18 どちらの形式の講義に参加したいですか。(有効回答数：319)



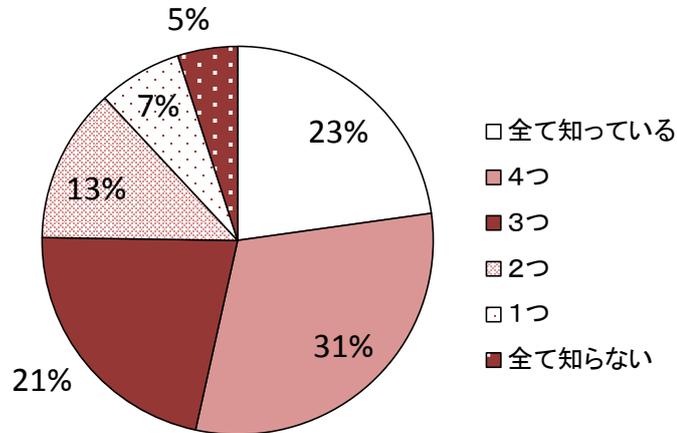
Q19 次のうちどの項目に重点を置いて学びたいですか。

(2つまで回答可、有効回答数：320)

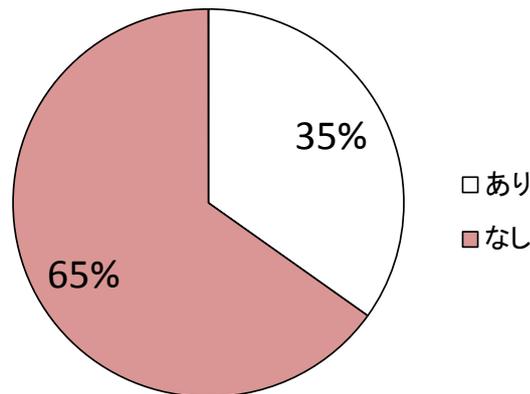


<参考資料 4 (学生対象アンケート【クロス集計結果】)>

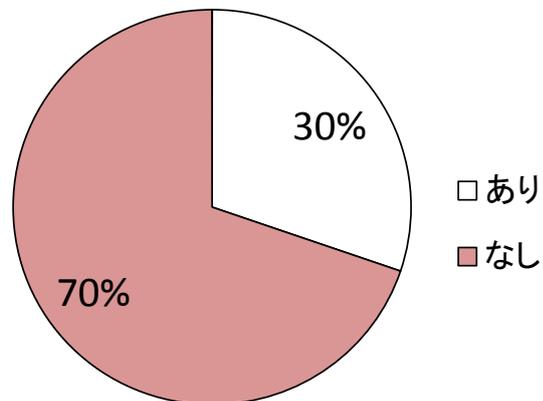
回答者の投資リテラシー (Q9~13)



Q8で「はい」と回答した人対象：投資意欲有 (154人)
余剰資金の有無 (有効回答数：152)

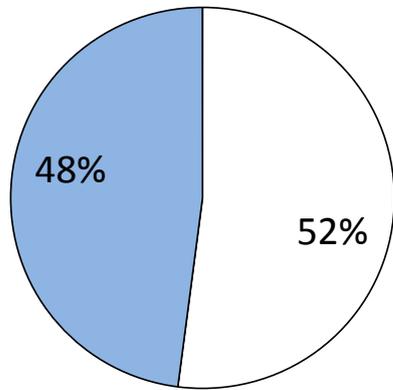


Q8で「いいえ」と回答した人対象：投資意欲無 (163人)
余剰資金の有無 (有効回答数 161)

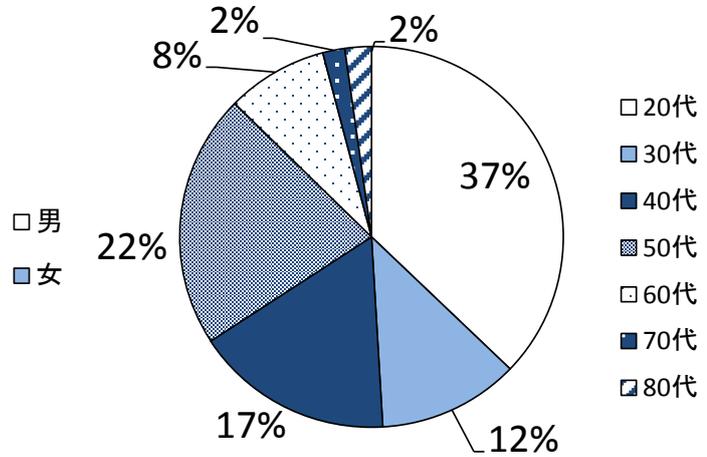


<参考資料 5 (社会人等対象アンケート【単純集計結果】)>

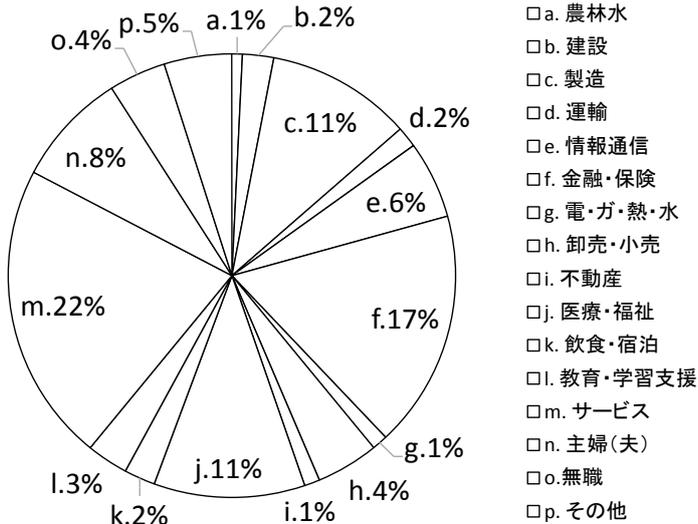
Q1 あなたの性別を教えてください。
(有効回答数: 269)



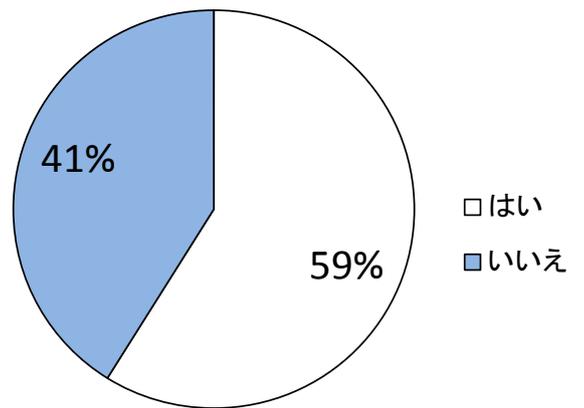
Q2 あなたの年齢を教えてください。
(有効回答数: 269)



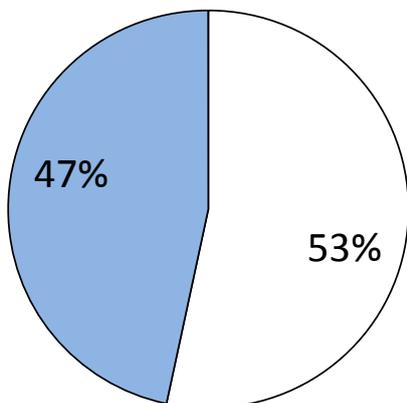
Q3 あなたの職種を教えてください。
(有効回答数: 266)



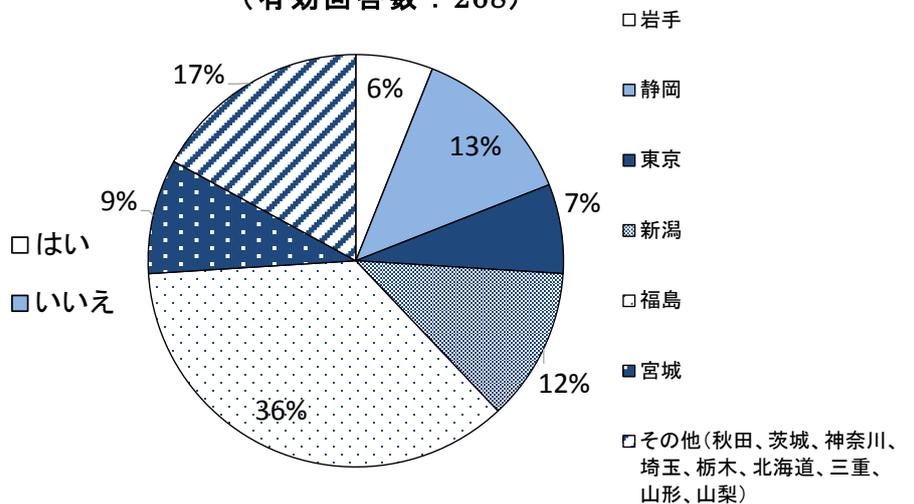
Q4 結婚はしていらっしゃいますか。
(有効回答数: 270)



Q5 お子さんはいらっしゃいますか。
(有効回答数: 268)

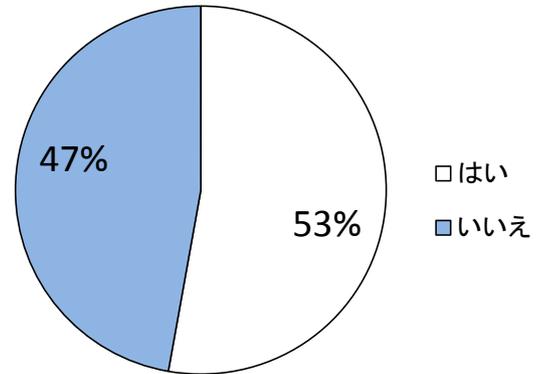
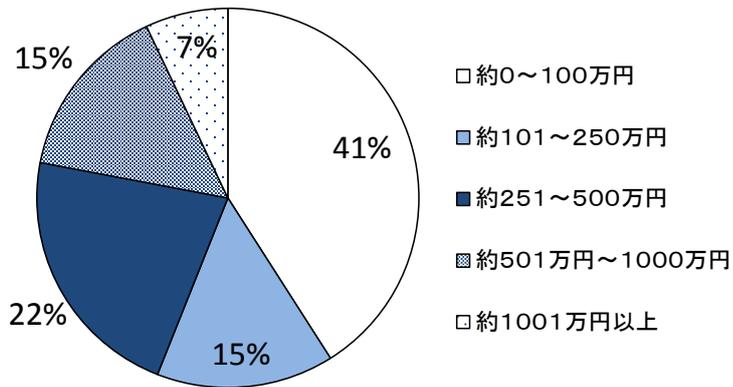


Q6 お住まいの地域はどちらですか。
(有効回答数: 268)

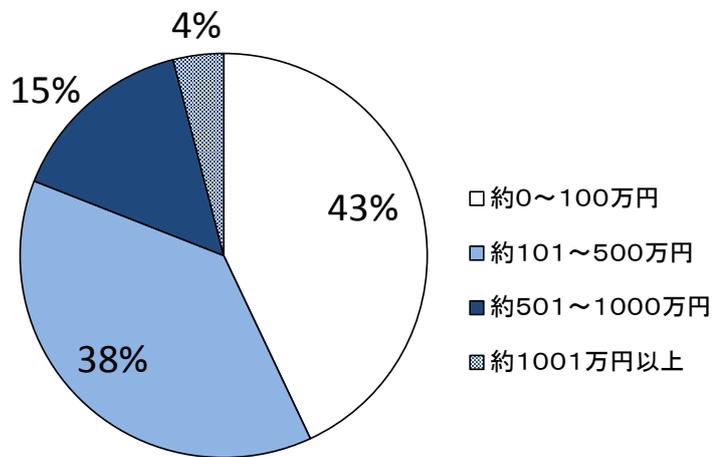


Q7 あなたには（結婚されている方は家計全体で）どれくらいの預貯金がありますか。（有効回答数：242）

Q8 Q7でお答え頂いた預貯金額のうち、現在、余剰資金はありますか。（有効回答数：250）

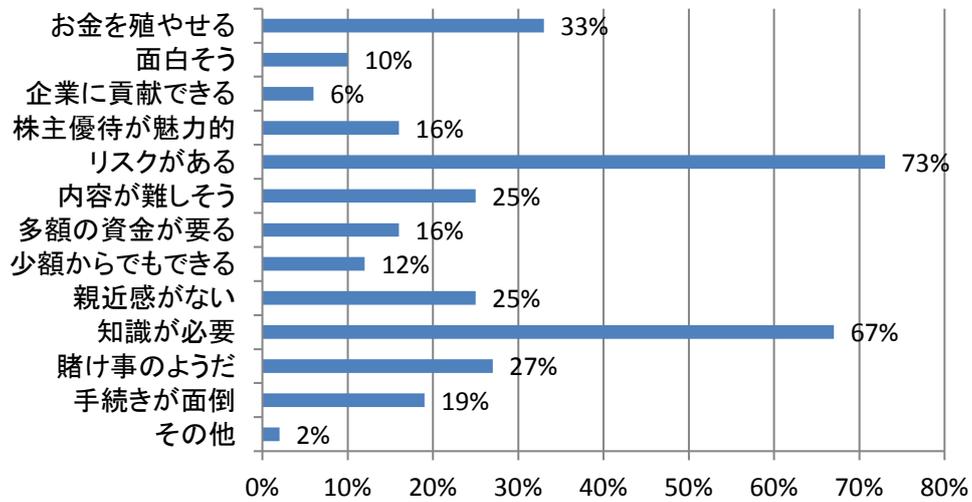


Q9 Q8で「はい」と答えた方にお聞きします。その額はいくらですか。（有効回答数：122）



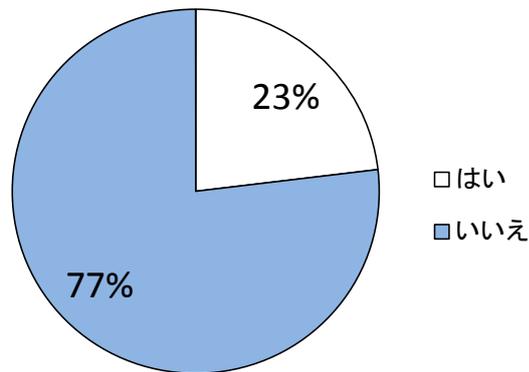
Q10 あなたの投資に対するイメージを教えてください。

(複数回答可、有効回答数：264)



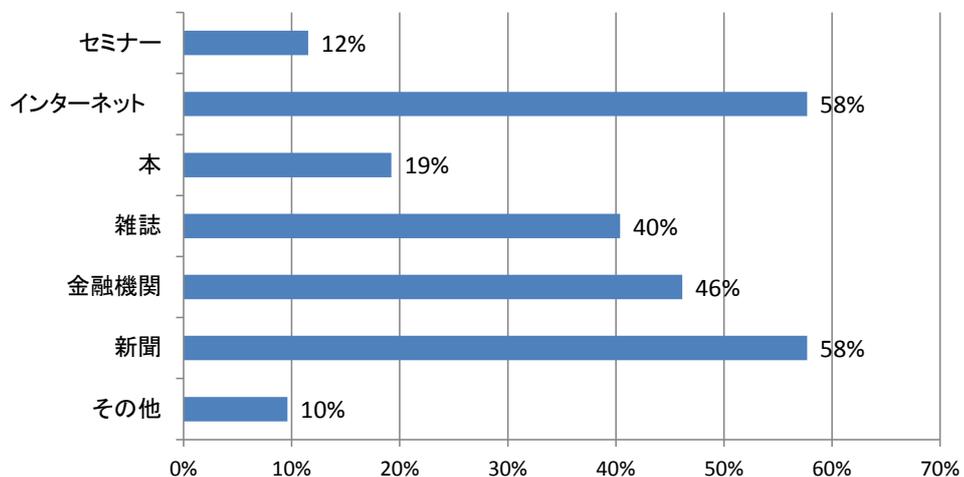
Q11 日常的に投資に関する情報入手されていますか。

(有効回答数：264)

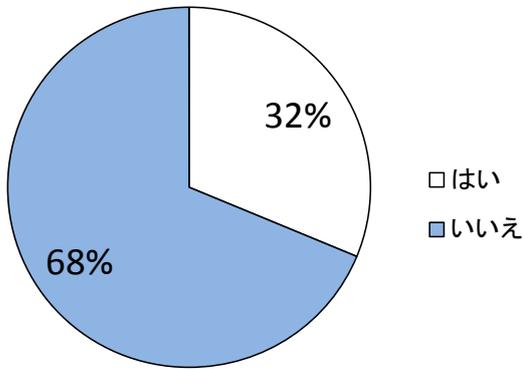


Q12 Q11で「はい」と答えた方にお聞きします。情報源は何ですか。

(複数回答可、有効回答数：52)

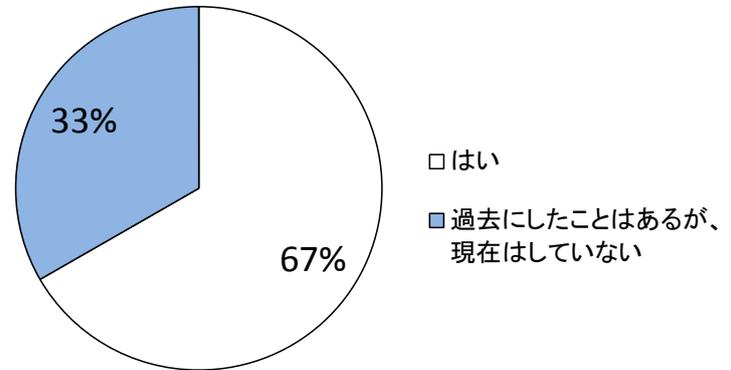


Q13 これまでに投資をしたことがありますか。(有効回答数：260)



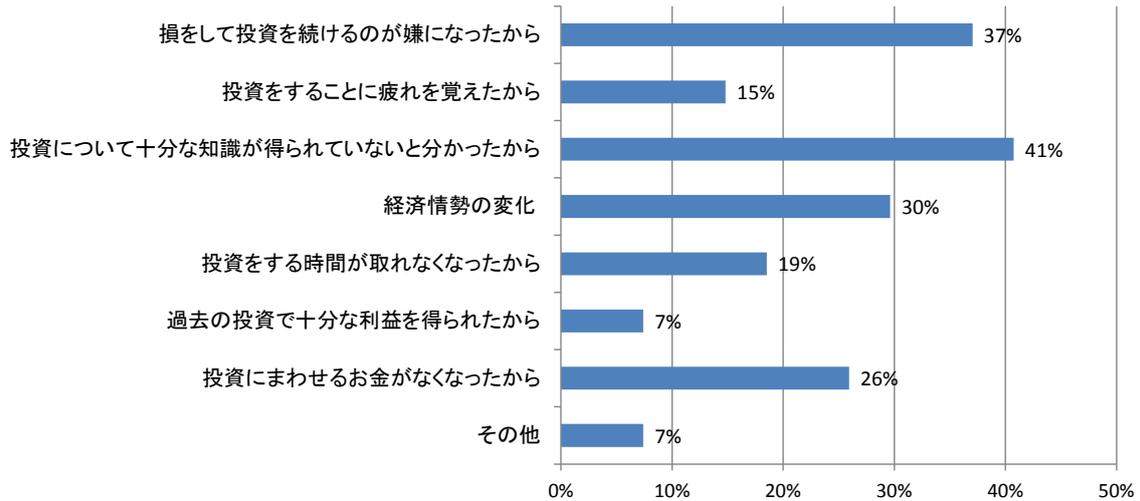
※Q14~19まで、Q13で「はい」と答えた方対象

Q14 現在も投資をしていますか。(有効回答数：81)



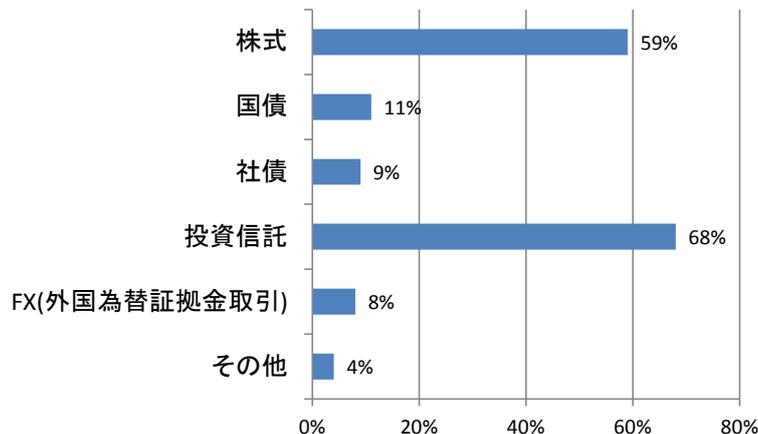
Q15 Q14で「過去にしたことはあるが、現在はしていない」と回答された方にお聞きします。現在投資をしていない理由は何ですか。

(複数回答可、有効回答数：27)



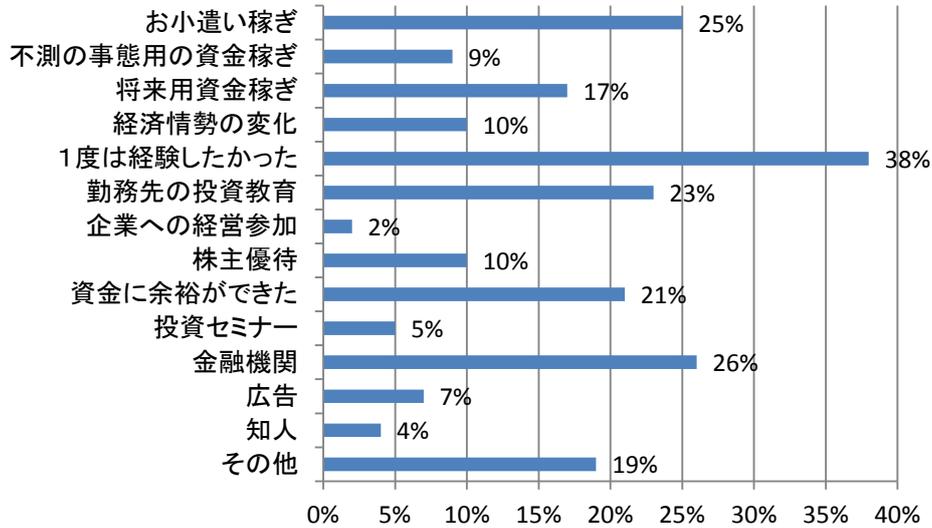
Q16 保有している(保有していた)金融商品の種類は何ですか。

(複数回答可、有効回答数：80)



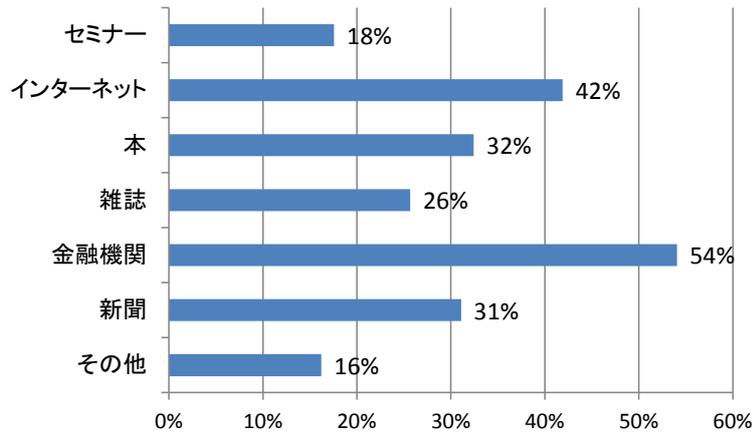
Q 17 投資をしようと思ったきっかけをお聞かせください。

(複数回答可、有効回答数：81)



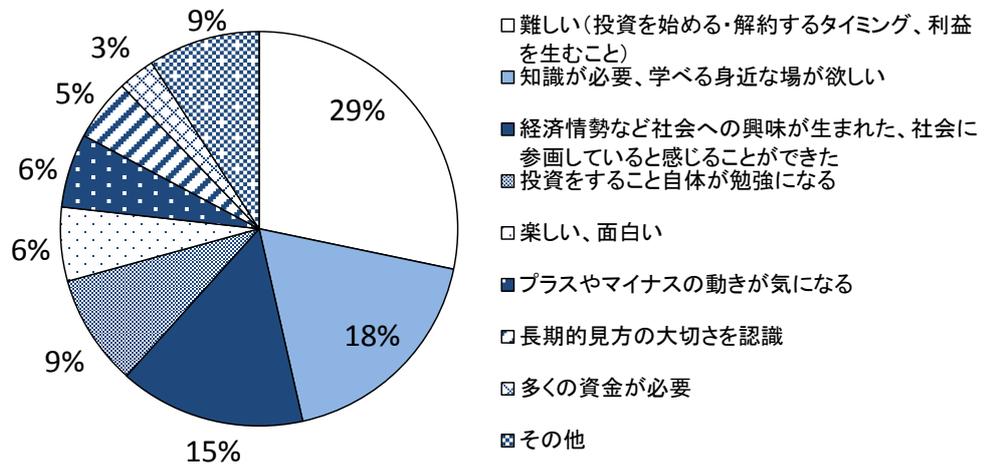
Q 18 どのようにして投資の知識を学ばれましたか。

(複数回答可、有効回答数：74)



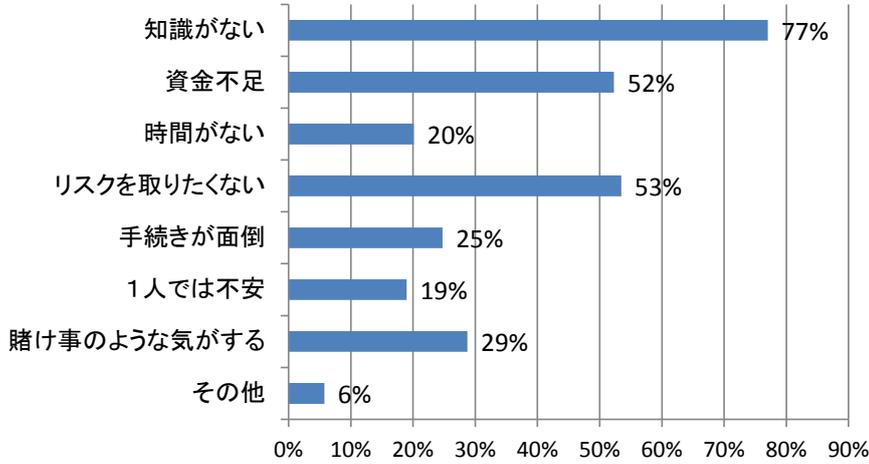
Q 19 実際に投資をされてみてのご意見・ご感想をお聞かせください。

(自由記述、有効回答数：65)



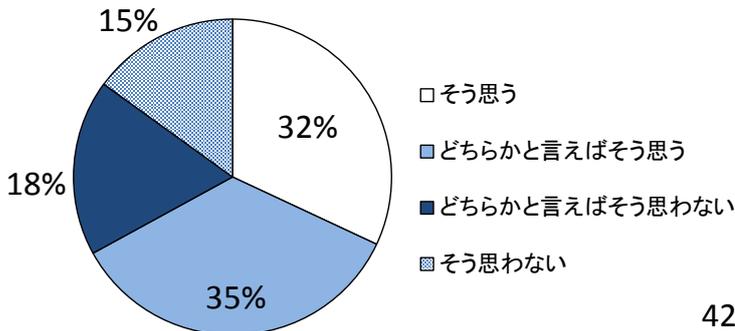
※この質問のみ、Q13で「いいえ」と答えた方対象

Q20 投資をしない理由は何ですか。(複数回答可、有効回答数：173)

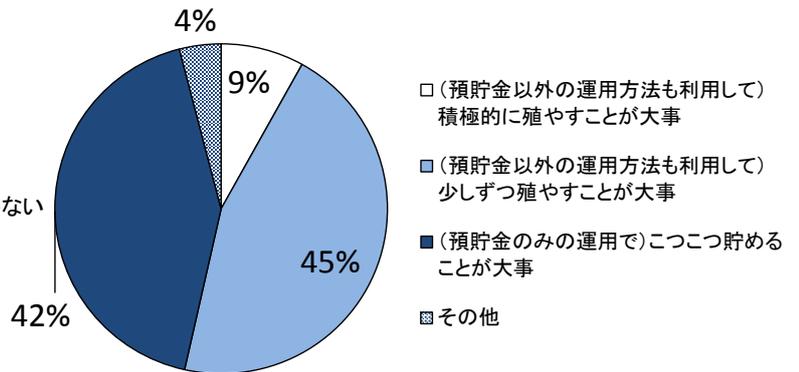


Q21 将来のことを考えると、預貯金だけの運用に不安を感じますか。

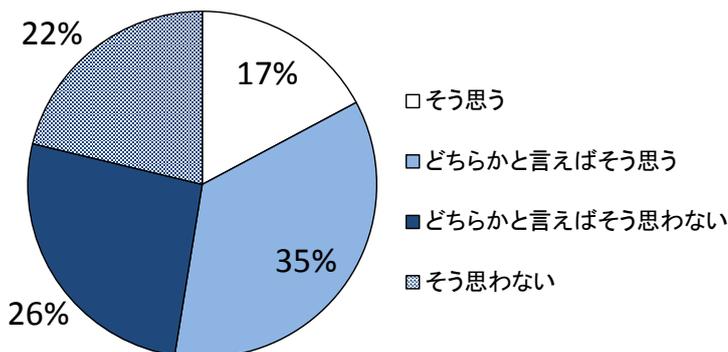
(有効回答数：260)



Q22 あなたの資産運用に対する考え方を教えてください。(有効回答数：260)

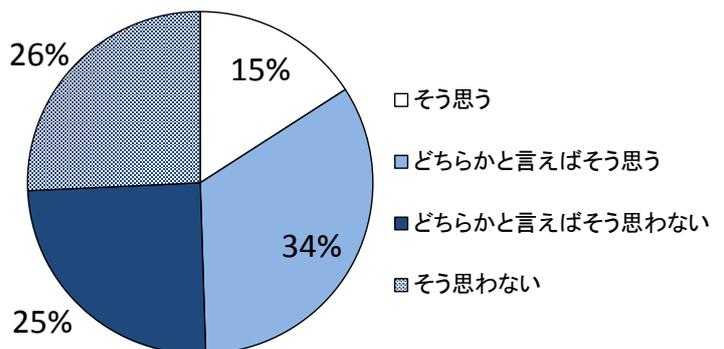


Q23 投資について詳しく学びたいと思いますか。(有効回答数：263)



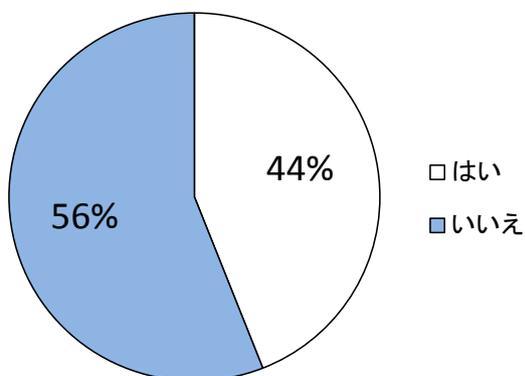
Q24 投資について学ぶ場が身近にあれば行きたいと思いますか。

(有効回答数：262)

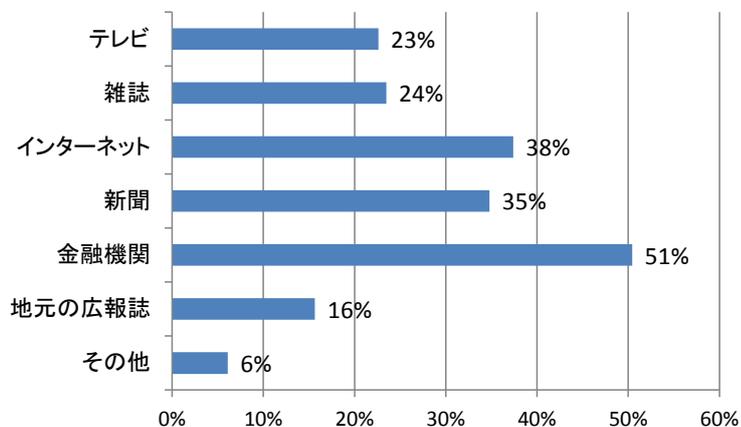


Q25 投資セミナーが各地で開催されていることを知っていますか。

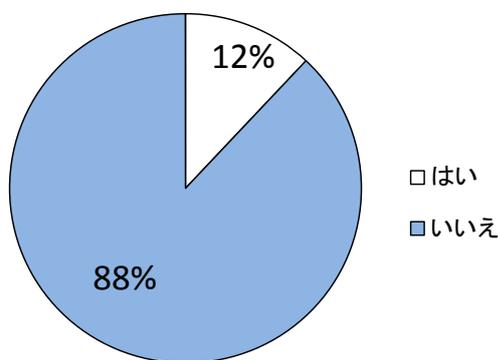
(有効回答数：263)



Q26 Q25で「はい」と答えた方にお聞きします。それはどのようにして知りましたか。(複数回答可、有効回答数：113)

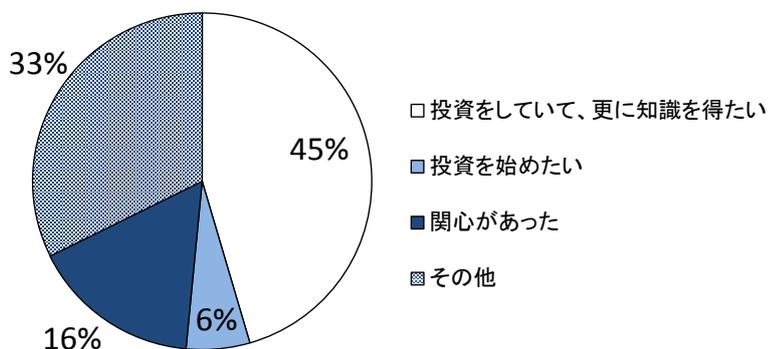


Q27 投資セミナーに行ったことがありますか。(有効回答数：263)

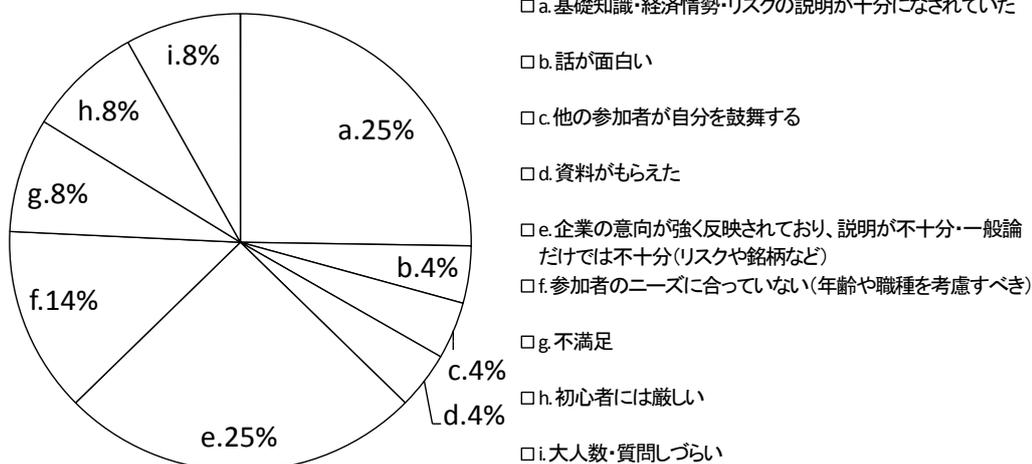


※Q28～29はQ27で「はい」と答えた方対象

Q28 投資セミナーに参加した理由は何ですか。(有効回答数：31)

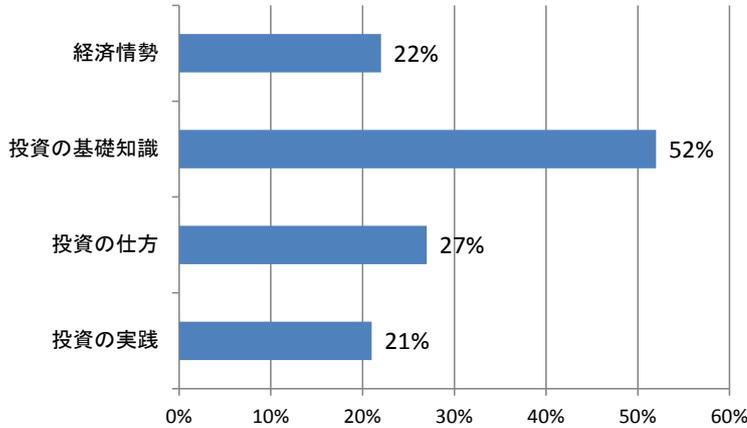


Q29 参加された投資セミナーのご感想（良かった点、不満等）をお書きください。(有効回答数：24)



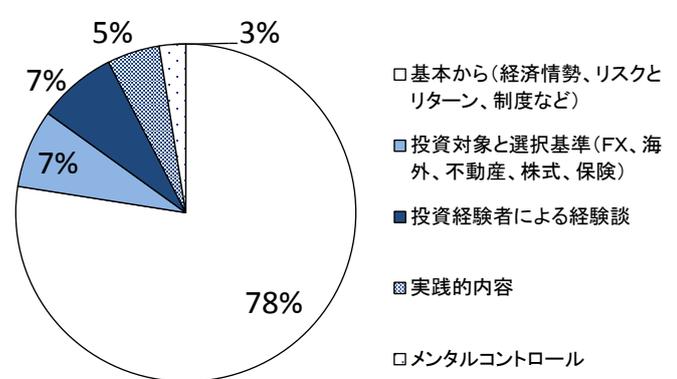
Q 30 次のうちどの項目に重点を置いて学びたいですか。

(複数回答、有効回答数：251)



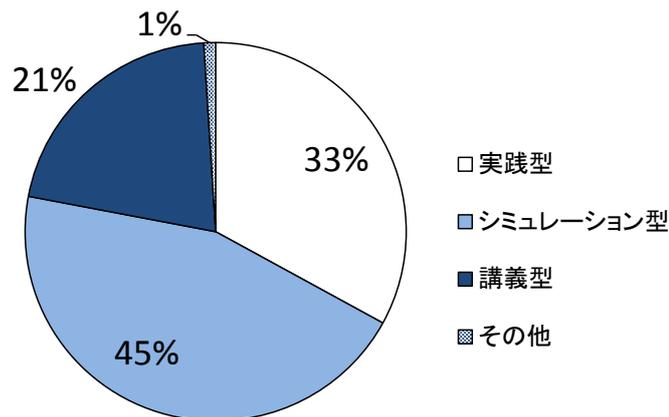
Q 31 他に重点を置いて学びたいことがあれば、お書きください。

(自由記述、有効回答数：40)

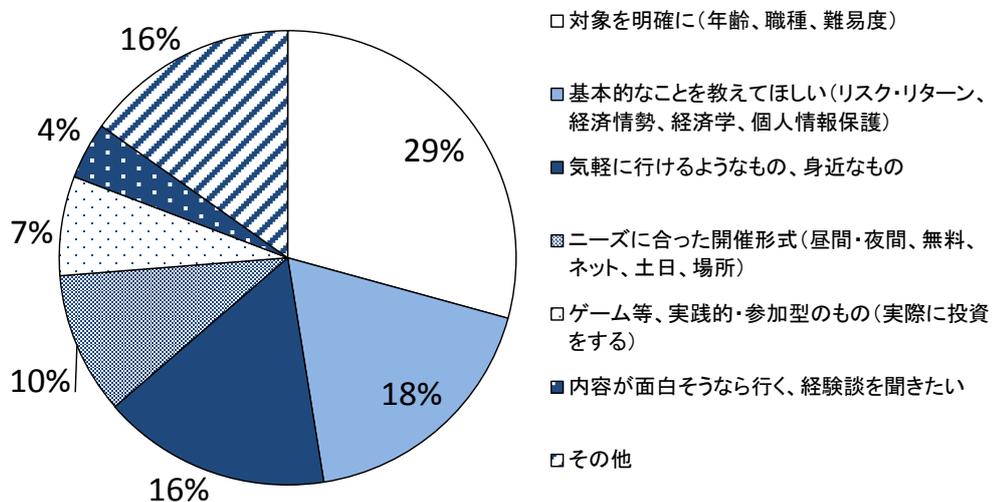


Q 32 どのような形式が良いですか。

(有効回答数：257)



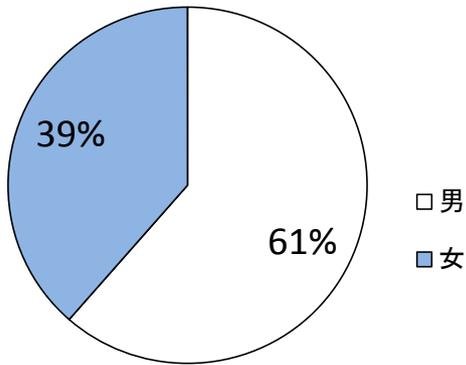
Q 33 その他、投資セミナーに関して、あなたのご意見・ご要望をお書きください。(自由記述、有効回答数：68)



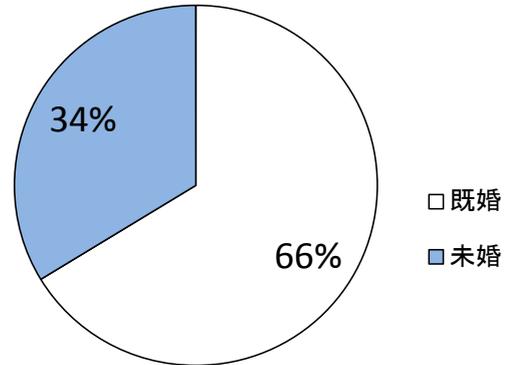
<参考資料 6 (社会人等対象アンケート【クロス集計結果】)>

Q13で「はい」と回答した人対象：投資経験有（83人）

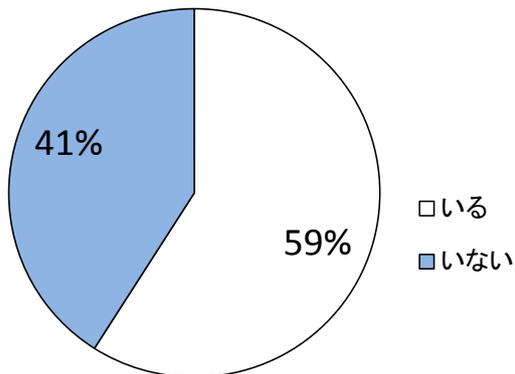
性別（有効回答数：83）



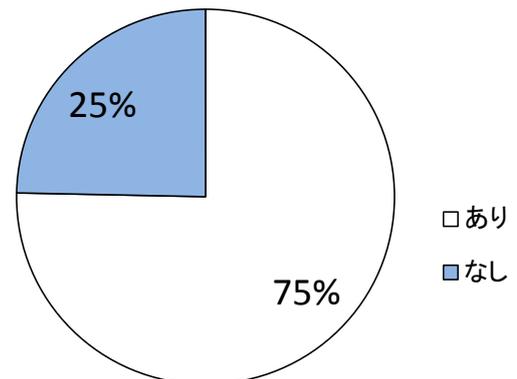
結婚（有効回答数：83）



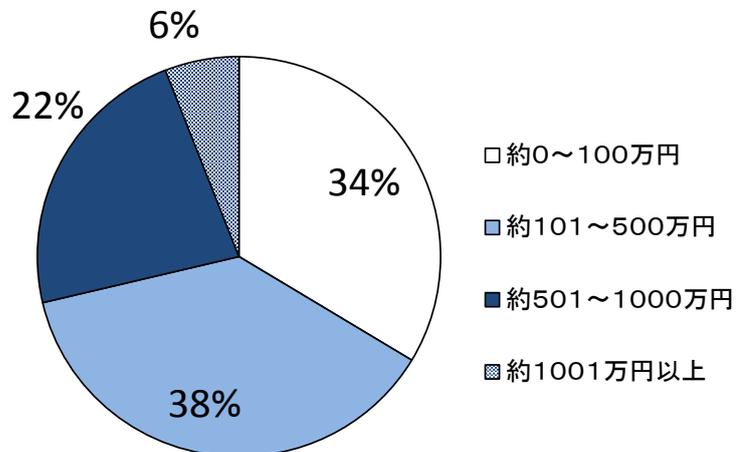
子どもの有無（有効回答数：83）



余剰資金の有無（有効回答数：77）

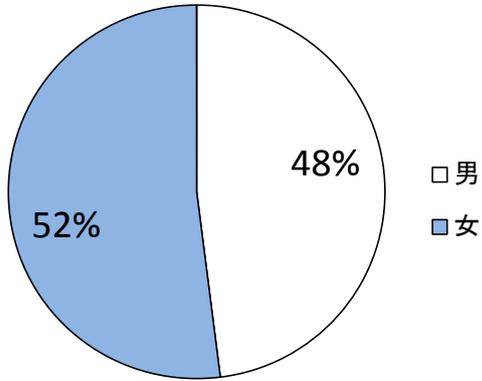


余剰資金額（有効回答数：53）

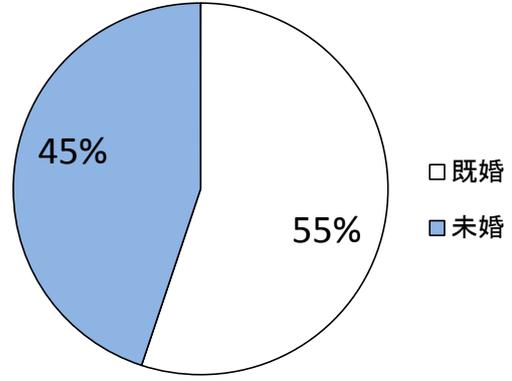


Q13で「いいえ」と回答した人対象：投資経験無（177人）

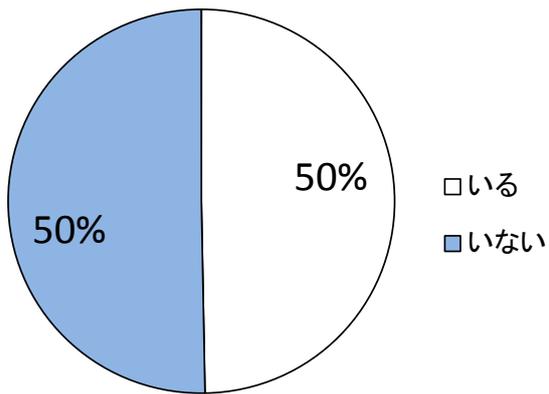
性別（有効回答数：175）



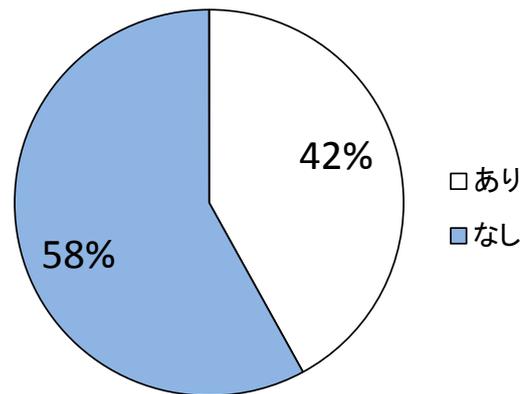
結婚（有効回答数：176）



子どもの有無（有効回答数：175）



余剰資金の有無（有効回答数：163）



余剰資金額（有効回答数：65）

